



AMS アドバンスド変更タイプの例

AMS Advanced Change Management ユーザーガイド



Version January 23, 2025

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AMS Advanced Change Management ユーザーガイド: AMS アドバンスト変更タイプの例

Copyright © 2026 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、Amazon のものではない製品またはサービスと関連付けてはならず、また、お客様に混乱を招くような形や Amazon の信用を傷つけたり失わせたりする形で使用することはできません。Amazon が所有していない他のすべての商標は、それぞれの所有者の所有物であり、Amazon と提携、接続、または後援されている場合とされていない場合があります。

Table of Contents

例	1
ウォークスルーのレビュー	1
ELB リスナールールを作成する	3
VPC エンドポイントポリシーの更新	8
NAT ゲートウェイの削除 (レビューが必要)	11
EC2 インスタンスメタデータサービス (IMDS) リージョン設定の更新	14
コンピュータオブジェクトの SPN を作成する	18
ターゲットグループを削除する (レビューが必要)	21
Application Load Balancer (ALB) を作成する	25
Application Load Balancer (ALB) を更新する	28
リスナーを作成する	32
高可用性 1 層スタック: 作成	36
IAM エンティティまたはポリシーを作成する (レビューが必要)	39
カスタム CloudFormation スタックのロールバックを続行する	44
VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する	47
スケジュールの追加	50
EBS スナップショットの削除 (レビューが必要)	54
SNS トピックを更新する	57
S3 アクセスポイントを作成する	60
カスタム RDS パラメータグループの作成	63
Amazon S3 バケットにイベント通知を追加する	66
AMS 自動 IAM プロビジョニングのカスタム拒否リストを更新する	70
AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを SALZ アカウントの Route 53 に移行する (レビューが必要)	73
VPC からリゾルバールールの関連付けを解除する	76
拡張モニタリングの更新	80
VPC をリゾルバールールに関連付ける	83
AMS パターンをデプロイする (レビューが必要)	86
キーの共有 AWS KMS	89
Active Directory 信頼の作成	92
スタックアクセス期間を上書きする (レビューが必要)	96
読み取り/書き込みアクセス許可を使用して自動 IAM プロビジョニングを有効にする	99
VPC 静的ルートを追加する (レビューが必要)	102
IAM エンティティまたはポリシーを作成する	105

IAM エンティティまたはポリシーを更新する	110
IAM エンティティまたはポリシーを削除する	114
詳細モニタリングの更新	117
ディレクトリを共有する	121
ディレクトリの共有解除	124
VPC エンドポイントを作成する	127
RDS ストレージを更新する	131
RDS マルチ AZ デプロイを更新する	134
RDS インスタンスタイプを更新する	138
S3 バケットのバージョニングを更新する	141
S3 バケットの暗号化を更新する	144
アプリケーションアカウントの更新 (レビューが必要)	148
プライベート IP アドレスを関連付ける (レビューが必要) ct-1pvlhug439gl2	151
Amazon RDS オプショングループを作成する (レビューが必要)	154
TGW 静的ルートを削除する	157
WIGS 用に を作成する (レビューが必要)	161
EBS ボリュームの変更	164
AWS Backup プランの更新 (レビューが必要)	168
オフボーディングの確認	172
管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント	176
AMS Resource Scheduler ソリューションをデプロイする	180
AMS リソーススケジューラソリューションを更新する	183
アクセスキーを削除または非アクティブ化する	187
アクセスキーを作成する	190
詳細モニタリングを有効化	194
DeleteOnTermination オプションを更新する (レビューが必要)	197
RDS メンテナンスウィンドウの更新 (レビューが必要)	200
RDS パフォーマンスインサイトを更新する (レビューが必要)	204
セキュリティグループを作成する (レビューが必要)	207
.....	ccxii

例

トピック

- [ウォークスルーのレビュー](#)

ウォークスルーのレビュー

トピック

- [ELB リスナールールを作成する](#)
- [VPC エンドポイントポリシーの更新](#)
- [NAT ゲートウェイの削除 \(レビューが必要\)](#)
- [EC2 インスタンスメタデータサービス \(IMDS\) リージョン設定の更新](#)
- [コンピュータオブジェクトの SPN を作成する](#)
- [ターゲットグループを削除する \(レビューが必要\)](#)
- [Application Load Balancer \(ALB\) を作成する](#)
- [Application Load Balancer \(ALB\) を更新する](#)
- [リスナーを作成する](#)
- [高可用性 1 層スタック: 作成](#)
- [IAM エンティティまたはポリシーを作成する \(レビューが必要\)](#)
- [カスタム CloudFormation スタックのロールバックを続行する](#)
- [VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する](#)
- [スケジュールの追加](#)
- [EBS スナップショットの削除 \(レビューが必要\)](#)
- [SNS トピックを更新する](#)
- [S3 アクセスポイントを作成する](#)
- [カスタム RDS パラメータグループの作成](#)
- [Amazon S3 バケットにイベント通知を追加する](#)
- [AMS 自動 IAM プロビジョニングのカスタム拒否リストを更新する](#)
- [AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを SALZ アカウントの Route 53 に移行する \(レビューが必要\)](#)

- [VPC からリゾルバールールの関連付けを解除する](#)
- [拡張モニタリングの更新](#)
- [VPC をリゾルバールールに関連付ける](#)
- [AMS パターンをデプロイする \(レビューが必要\)](#)
- [キーの共有 AWS KMS](#)
- [Active Directory 信頼の作成](#)
- [スタックアクセス期間を上書きする \(レビューが必要\)](#)
- [読み取り/書き込みアクセス許可を使用して自動 IAM プロビジョニングを有効にする](#)
- [VPC 静的ルートを追加する \(レビューが必要\)](#)
- [IAM エンティティまたはポリシーを作成する](#)
- [IAM エンティティまたはポリシーを更新する](#)
- [IAM エンティティまたはポリシーを削除する](#)
- [詳細モニタリングの更新](#)
- [ディレクトリを共有する](#)
- [ディレクトリの共有解除](#)
- [VPC エンドポイントを作成する](#)
- [RDS ストレージを更新する](#)
- [RDS マルチ AZ デプロイを更新する](#)
- [RDS インスタンスタイプを更新する](#)
- [S3 バケットのバージョニングを更新する](#)
- [S3 バケットの暗号化を更新する](#)
- [アプリケーションアカウントの更新 \(レビューが必要\)](#)
- [プライベート IP アドレスに関連付ける \(レビューが必要\) ct-1pvlhug439gl2](#)
- [Amazon RDS オプショングループを作成する \(レビューが必要\)](#)
- [TGW 静的ルートを削除する](#)
- [WIGS 用に を作成する \(レビューが必要\)](#)
- [EBS ボリュームの変更](#)
- [AWS Backup プランの更新 \(レビューが必要\)](#)
- [オフボーディングの確認](#)

- [管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント](#)
- [AMS Resource Scheduler ソリューションをデプロイする](#)
- [AMS リソーススケジューラソリューションを更新する](#)
- [アクセスキーを削除または非アクティブ化する](#)
- [アクセスキーを作成する](#)
- [詳細モニタリングを有効化](#)
- [DeleteOnTermination オプションを更新する \(レビューが必要\)](#)
- [RDS メンテナンスウィンドウの更新 \(レビューが必要\)](#)
- [RDS パフォーマンスインサイトを更新する \(レビューが必要\)](#)
- [セキュリティグループを作成する \(レビューが必要\)](#)

ELB リスナールールを作成する

コンソールを使用した ELB リスナールールの作成

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット :

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの Browse change types ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、Choose by category ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定領域を開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した ELB リスナー規則の作成

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

"\"]}"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-18weo4vv83ynk" --change-type-version "1.0" --title "Create ALB Listener Rule" --execution-parameters {"\DocumentName\":"AWSManagedServices-CreateListenerRule","\Parameters\":{"\ListenerArn\":[\LISTENER_ARN\],"\Conditions\":[\{"Field\":"path-pattern","\PathPatternConfig\":{"Values\":["/img/*"]}}],"\RuleType\":[\redirect\],"\Priority\":[\200\],"\TargetGroups\":[\{\}],"\TargetGroupStickinessConfig\":[\{\}],"\TargetGroupStickinessDuration\":[\{\}],"\RedirectProtocol\":[\HTTP\],"\RedirectPort\":[\85\],"\RedirectHost\":[\www.example.com\],"\RedirectPath\":[\new-path\],"\RedirectQuery\":[\page1\],"\RedirectStatusCode\":[\HTTP_301\]},\Region\":"REGION\"}}
```

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-18weo4vv83ynk" --change-type-version "1.0" --title "Create ALB Listener Rule" --execution-parameters {"\DocumentName\":"AWSManagedServices-CreateListenerRule","\Parameters\":{"\ListenerArn\":[\LISTENER_ARN\],"\Conditions\":[\{"Field\":"path-pattern","\PathPatternConfig\":{"Values\":["/img/*"]}}],"\RuleType\":[\forward\],"\Priority\":[\125\],"\TargetGroups\":[\{"TargetGroupArn\":"TARGET_GROUP_ARN","\Weight\":"20"}],"\TargetGroupStickinessConfig\":[\Enabled\],"\TargetGroupStickinessDuration\":[\15\],"\RedirectProtocol\":[\{\}],"\RedirectPort\":[\{\}],"\RedirectHost\":[\{\}],"\RedirectPath\":[\{\}],"\RedirectQuery\":[\{\}],"\RedirectStatusCode\":[\{\}],\Region\":"REGION\"}}
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを validateCreateRule.Actions.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-18weo4vv83ynk" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > validateCreateRule.Actions.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

すべてのパラメータの例：

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateListenerRule",
  "Region": "us-west-2",
  "Parameters": {
    "ListenerArn": ["LISTENER_ARN"],
    "Conditions": [{"Field": "host-header", "HostHeaderConfig": {"Values": ["example.com"]}}],
    "RuleType": ["forward"],
    "Priority": ["200"],
    "TargetGroups": [{"TargetGroupArn": "TARGET_GROUP_ARN", "Weight": "100"}],
    "TargetGroupStickinessConfig": ["Enabled"],
    "TargetGroupStickinessDuration": ["86400"],
    "RedirectProtocol": [""],
    "RedirectPort": [""],
    "RedirectHost": [""],
    "RedirectPath": [""],
    "RedirectQuery": [""],
    "RedirectStatusCode": [""],
    "Priority": "High"
  }
}
```

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateListenerRule",
  "Parameters": {
    "ListenerArn": [
      "LISTENER_ARN"
    ],
    "Conditions": [
      [{"Field": "path-pattern", "PathPatternConfig": {"Values": ["/img/*"]}}]
    ],
    "RuleType": [
      "forward"
    ],
    "Priority": [
      "125"
    ],
  },
}
```

```
"TargetGroups": [
  {"TargetGroupArn": "TARGET_GROUP_ARN", "Weight": "20"}
],
"TargetGroupStickinessConfig": [
  "Enabled"
],
"TargetGroupStickinessDuration": [
  "15"
],
"RedirectProtocol": [
  ""
],
"RedirectPort": [
  ""
],
"RedirectHost": [
  ""
],
"RedirectPath": [
  ""
],
"RedirectQuery": [
  ""
],
"RedirectStatusCode": [
  ""
]
},
"Region": "REGION",
"Priority": "High"
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateListenerRuleRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateListenerRuleRfc.json
```

4. CreateListenerRuleRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-18weo4vv83ynk",
```

```
"Title": "Create ALB Listener Rule"  
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと validateCreateRule ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateListenerRuleRfc.json --  
execution-parameters file://validateCreateRule.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

AWS Application Load Balancer の詳細については、[Application Load Balancer とは](#)を参照してください。

VPC エンドポイントポリシーの更新

VPC エンドポイントポリシーの更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs ソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した VPC エンドポイントポリシーの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter  
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\" : {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}"`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-128mp7mbxobd0" --change-type-version "1.0" --title "Update VPC Endpoint Policy" --execution-parameters "{\"Region\" : \"us-east-1\", \"VpcEndpointId\" : \"vpce-1a2b3c4d5e6f7g8h9\", \"PolicyDocument\" : \"Example endpoint policy\", \"PolicyAction\" : \"Append\", \"Priority\" : \"High\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、UpdateVPCEndpointPolicyParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-128mp7mbxobd0" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateVPCEndpointPolicyParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Region": "us-east-1",
  "VpcEndpointId": "vpce-1a2b3c4d5e6f7g8h9",
  "PolicyDocument": "Example endpoint policy"
  "PolicyAction" : "Append",
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では UpdateVPCEndpointPolicyRFC.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateVPCEndpointPolicyRFC.json
```

4. UpdateVPCEndpointPolicyRFC.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-128mp7mbxobd0",  
  "Title": "Update VPC Endpoint Policy"  
}
```

5. RFC を作成し、UpdateVPCEndpointPolicyRFC ファイルと UpdateVPCEndpointPolicyParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateVPCEndpointPolicyRFC.json --  
execution-parameters file://UpdateVPCEndpointPolicyParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

これは「レビュー必須」変更タイプです (AMS オペレータは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります。RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、「レビュー必須」変更タイプ RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

NAT ゲートウェイの削除 (レビューが必要)

このオペレーションは、正常に完了する前に、手動によるレビューと承認が必要です。

NAT ゲートウェイの削除 (レビューが必要)

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。

2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した NAT ゲートウェイの削除 (レビューが必要)

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1rexstryxye1b" --change-type-version "1.0"
--title "Delete NAT Gateway" --execution-parameters "{\"Region\": \"us-east-1\",
\"NatGatewayId\": [\"nat-1234567890abcdef0\"], \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. 実行パラメータの JSON スキーマを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では、DeleteNATGatewayParams.json。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1rexstryxye1b"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeleteNATGatewayParams.json
```

2. DeleteNATGatewayParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Region": "us-west-1",
```

```
"NatGatewayId": "nat-1234567890abcdef0"  
"Priority": "High"  
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では、DeleteNATGatewayRfc.json.

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeleteNATGatewayRfc.json
```

4. DeleteNATGatewayRfc.json ファイルを変更して保存します。

JSON 拡張機能の内部引用符はバックスラッシュ (\) ExecutionParameters でエスケープする必要があります。例:

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-1rexstryxye1b",  
  "Title": "Delete-NAT-Gateway"  
}
```

5. RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeleteNATGatewayRfc.json --execution-parameters file://DeleteNATGatewayParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

これは「レビュー必須」変更タイプです (AMS オペレータは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります、RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、「レビュー必須」変更タイプ RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

EC2 インスタンスメタデータサービス (IMDS) リージョン設定の更新

コンソールを使用した EC2 インスタンス IMDS リージョン設定の更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した EC2 インスタンス IMDS リージョン設定の更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パ

ラメータ用) のいずれかを使用し、2つのファイルを入力としてcreate-rfcコマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email": {"EmailRecipients": ["email@example.com"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2o1knqwx39mkc" --change-type-version
"1.0" --title "Update IMDS region-level default settings" --execution-parameters
{"Region": "us-west-2", "HttpEndpoint": "Enabled", "HttpTokens": "Required",
"InstanceMetadataTags": "Enabled", "HttpPutResponseHopLimit": 1, "Priority":
"High"}
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では、これを UpdateEC2ImdsRegionParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2o1knqwx39mkc"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateEC2ImdsRegionParams.json
```

2. UPdateEC2ImdsRegionParams ファイルを変更して保存し、変更するパラメータのみを保持します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Region": "us-west-2",
  "HttpEndpoint": "Enabled",
  "HttpTokens": "Required"
  "InstanceMetadataTags" : "Enabled",
  "HttpPutResponseHopLimit": 1,
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では、UPdateEC2ImdsRegionRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UPdateEC2ImdsRegionRfc.json
```

4. UPdateEC2ImdsRegionRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2o1knqwx39mkc",
  "Title": "Update IMDS region-level default settings"
}
```

5. RFC を作成し、UPdateEC2ImdsRegionRfc ファイルと UPdateEC2ImdsRegionParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UPdateEC2ImdsRegionRfc.json --
execution-parameters file://UPdateEC2ImdsRegionParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

インスタンスメタデータオプションのデフォルト値は、それぞれのアカウントレベルで設定できます AWS リージョン。インスタンスが起動すると、インスタンスメタデータオプションは自動的にアカウントレベルの値に設定されます。これらの値は起動時に変更できます。アカウントレベルのデフォルト値は既存のインスタンスには影響しません。Amazon EC2 IMDS 設定の詳細については、[「インスタンスメタデータオプションを設定する場所」](#)を参照してください。

コンピュータオブジェクトの SPN を作成する

コンソールを使用して AMS 管理 AD からコンピュータオブジェクトの SPN を作成する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して AMS 管理 AD からコンピュータオブジェクトの SPN を作成する

仕組み：

- インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0ulaleq7ohuyq" --change-type-version "1.0"
--title "Create service principal names" --execution-parameters "{ \"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-CreateADSPN-Admin\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters
\": { \"ServiceType\": \"MSSQLSvc\", \"Hostnames\": \"server1,server2\",
\"ServiceAccountName\": \"gmsa_sql\" } }"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では ComputerObjectCreateSpnParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0ulaleq7ohuyq"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
ComputerObjectCreateSpnParams.json
```

ComputerObjectCreateSpnParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateADSPN-Admin",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "ServiceType": ["HOST"],
    "Hostnames": "server1",
    "ServiceAccountName": "gmsa_host",
    "Port": ["1433"],
    "ApplicationAccountId": "123456789012"
  }
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では ComputerObjectCreateSpnRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ComputerObjectCreateSpnRfc.json
```

3. ComputerObjectCreateSpnRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0ulaleq7ohuyq",
  "Title": "Create service principal names"
}
```

4. ComputerObjectCreateSpnRfc ファイルと ComputerObjectCreateSpnParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ComputerObjectCreateSpnRfc.json --
execution-parameters file://ComputerObjectCreateSpnParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- マルチアカウントランディングゾーン (MALZ) の場合は、共有サービスアカウントでこの変更タイプを使用します。
- Directory Service の詳細については、[「Directory Service 管理者ガイド」](#)を参照してください。

ターゲットグループを削除する (レビューが必要)

コンソールを使用してターゲットグループを削除する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

Note

「レビュー必須」CT を使用する場合、AMS では ASAP スケジューリングオプション (コンソールで ASAP を選択し、API/CLI で開始時刻と終了時刻を空白のままにしておく) を使用することをお勧めします。これらの CTs では、AMS オペレータが RFC を調べる必要があり、承認して実行する前にお客様と通信する必要があるためです。これらの RFCs スケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用してターゲットグループを削除する

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email": {"EmailRecipients": ["email@example.com"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0akjahmgqhu4u" --change-type-version "1.0"
--title "Delete Target Group" --execution-parameters '{"Region": "us-west-2",
"TargetGroupArns": ["arn:aws:elasticloadbalancing:us-west-2:123456789012:targetgroup/my-targets/73e2d6bc24d8a067"], "Priority": "High"}'
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では TgDeleteParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0akjahmgqhu4u" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > TgDeleteParams.json
```

2. TgDeleteParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Region": "us-west-2",
  "TargetGroupArns": "arn:aws:elasticloadbalancing:us-
west-2:123456789012:targetgroup/my-targets/73e2d6bc24d8a067"
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレートを TgDeleteRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > TgDeleteRfc.json
```

4. TgDeleteRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0akjahmgqhu4u",
  "Title": "Delete Target Group"
}
```

5. RFC を作成し、TgDeleteRfc ファイルと TgDeleteParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://TgDeleteRfc.json --execution-
parameters file://TgDeleteParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

これは「レビューが必要」変更タイプです (AMS オペレーターは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があり、RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、「レビュー必須」変更タイプ RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

- ターゲットグループを削除すると、関連するヘルスチェックも削除されます。

- ターゲットグループを削除しても、登録されたターゲットには影響しません。
- ターゲットグループの詳細については、[「ELB ターゲットグループ」](#)を参照してください。

Application Load Balancer (ALB) を作成する

コンソールを使用した ALB の作成

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した ALB の作成

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm --profile saml --region us-east-1 create-rfc --change-type-id
"ct-111r1yayblnw4" --change-type-version "3.0" --title 'Create ALB' --description
"My Test ALB" --execution-parameters ""{"Description": "Test ALB", "VpcId":
"VPC_ID", "Name": "TestStack", "StackTemplateId": "stm-sd7uv50000000000",
"TimeoutInMinutes": 360, "LoadBalancer": {"SecurityGroups": ["SG_ID"], "SubnetIds
": ["SUBNET_ID", "SUBNET_ID"]}, "Listener1": {"Port": "443", "Protocol":
"HTTPS"}}
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-111r1yayblnw4" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateAlbParams.json
```

2. CreateAlbParams ファイルを変更して保存します。例:

```
{
  "Description":      "ALB-Create",
  "VpcId":            "VPC_ID",
  "Name":             "My-ALB",
  "StackTemplateId": "stm-sd7uv50000000000",
  "TimeoutInMinutes" : 360,
  "LoadBalancer" : {
    "SecurityGroups" : ["SG_ID"],
    "SubnetIds" : ["SUBNET_ID", "SUBNET_ID"]
  },
  "Listener1" : {
    "Port" : "443",
    "Protocol" : "HTTPS"
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateAlbRfc.json
```

4. CreateAlbRfc.json ファイルを変更して保存します。例:

```
{
```

```
"ChangeTypeVersion":    "3.0",
"ChangeTypeId":         "ct-111r1yayblnw4",
"Title":                "ALB-Create-RFC"
}
```

5. CreateAlbRfc ファイルと CreateAlbParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateAlbRfc.json --execution-parameters file://CreateAlbParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

バージョン 3.0 以降では、カスタマイズされたアラームしきい値を使用して 4 つの CloudWatch アラームを設定することもできます。

Note

ポートを開き、すべてのロードバランサーリソースを関連付けるには、[管理 | 高度なスタックコンポーネント | セキュリティグループ | RFC の更新](#)を送信します。

AWS Application Load Balancer の詳細については、[Application Load Balancer とは](#)を参照してください。

Application Load Balancer ターゲットグループを作成するには、[「ターゲットグループ | 作成 \(ALB の場合\)」](#)を参照してください。

Application Load Balancer (ALB) を更新する

コンソールを使用した ALB の更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した ALB の更新

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email": {"EmailRecipients": ["email@example.com"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title Test-Update-ALB --change-type-id ct-1a1zzgi2nb83d
--change-type-version 3.0 --execution-parameters '{"Description": "Updating Test
ALB", "VpcId": "VPC_ID", "StackTemplateId": "stm-sd7uv5000000000000", "Name": "Test-
Application-LoadBalancer", "TimeoutInMinutes": 360, "Parameters":
{"TargetGroupHealthCheckPath": "/myAppHealth"}}'
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-111r1yayblnw4" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateAlbParams.json
```

2. UpdateAlbParams ファイルを変更して保存します。例:

```
{
  "Description":      "ALB-Update",
  "VpcId":            "VPC_ID",
  "Name":             "My-ALB",
  "StackTemplateId": "stm-sd7uv5000000000000",
  "TimeoutInMinutes" : 360,
  "Parameters": {
    "LoadBalancerSecurityGroups": [
      "sg-1234567890abcdef0"
    ],
    "LoadBalancerSubnetIds": [
      "subnet-1234567890abcdef0",
      "subnet-1234567890abcdef1"
    ],
    "LoadBalancerDeletionProtection": "false",
    "LoadBalancerIdleTimeout": "60",
    "Listener1Port": "443",
    "Listener1Protocol": "HTTPS",
    "Listener1SSLCertificateArn": "arn:aws:acm:ap-
southeast-2:012345678912:certificate/e23c3545-e92d-4542-83b8-63483505b5a5",
    "Listener1SSLPolicy": "ELBSecurityPolicy-TLS-1-2-Ext-2018-06",
    "Listener2Port": "8080",
    "Listener2Protocol": "HTTP",
    "TargetGroupHealthCheckInterval": "10",
    "TargetGroupHealthCheckPath": "/thing/index.html",
    "TargetGroupHealthCheckPort": "8080",
    "TargetGroupHealthCheckProtocol": "HTTP",
    "TargetGroupHealthCheckTimeout": "10",
    "TargetGroupHealthyThreshold": "2",
    "TargetGroupUnhealthyThreshold": "10",
    "TargetGroupValidHTTPCode": "200",
    "TargetGroupDeregistrationDelayTimeout": "300",
    "TargetGroupSlowStartDuration": "30",
    "TargetGroupCookieExpirationPeriod": "20"
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateAlbRfc.json
```

4. UpdateAlbRfc.json ファイルを変更して保存します。例:

```
{
  "ChangeTypeVersion":    "3.0",
  "ChangeTypeId":        "ct-111r1yayblnw4",
  "Title":                "ALB-Update-RFC"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateAlbRfc ファイルと UpdateAlbParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateAlbRfc.json --execution-parameters file://UpdateAlbParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

この変更タイプはバージョン 3.0 で、ALB 変更タイプの作成 (ct-111r1yayblnw4) のバージョン 3.0 で使用できます。

AWS Application Load Balancer の詳細については、[Application Load Balancer とは](#)を参照してください。

リスナーを作成する

コンソールを使用した ALB または NLB のリスナーの作成

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット :

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した ALB または NLB のリスナーの作成

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email\": {"EmailRecipients\": ["email@example.com\n"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws --profile saml --region us-east-1 amscm create-rfc --change-type-id
"ct-14yjom3kvpinu" --change-type-version "2.0" --title "TITLE" --execution-parameters
{"Description\":"DESCRIPTION", "VpcId\":"VPC_ID", "StackTemplateId\": "stm-
u5n0r6aacdvdwthhm", "Name\":"NAME", "TimeoutInMinutes\":60, "Parameters\":
{"LoadBalancerArn\":"LB-ARN","DefaultActionTargetGroupArn\":"TARGET-GROUP-ARN",
"Port\":"80","Protocol\":"HTTP"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では CreateListenerParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-14yjom3kvpinu" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateListenerParams.json
```

2. CreateListenerParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Description":      "Listener-Create",
  "VpcId":            "VPC_ID",
  "StackTemplateId": "stm-u5n0r6aacdvdwthhm",
  "Name":             "My-Listener",

  "Parameters": {
    "LoadBalancerArn":      ARN,
    "DefaultActionTargetGroupArn": ARN,
    "Port":                 PORT,
    "Protocol":             Protocol"
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateListenerRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateListenerRfc.json
```

4. CreateListenerRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId":      "ct-14yjom3kvpinu",
  "Title":              "Listener-Create-RFC"
}
```

5. CreateListenerRfc ファイルと CreateListenerParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateListenerRfc.json --execution-
parameters file://CreateListenerParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

次のステップ: 管理を送信する | その他 | その他 | 変更タイプを更新してポートを開き、セキュリティグループを関連付けるには、[「その他 | その他のリクエスト」](#)を参照してください。

ヒント

Note

最大 4 つのターゲット IDs、ポート、アベイラビリティゾーンを指定できます。

高可用性 1 層スタック: 作成

コンソールを使用した高可用性 1 層スタックの作成

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した高可用性 1 層スタックの作成

仕組み：

1. Template Create メソッド (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) を使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com

\"]}]}"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

テンプレート作成：

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateOnetierStackParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-09t6q7j9v5hrn"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateOnetierStackParams.json
```

2. スキーマを変更し、必要に応じて##を置き換えます。

```
{
  "Description":      "HA-One-Tier-Stack",
  "Name":             "One-Tier-Stack",
  "TimeoutInMinutes": "360",
  "VpcId":            "VPC_ID",
  "ApplicationLoadBalancer": {
    "SubnetIds": [
      "SUBNET_ID",
      "SUBNET_ID"
    ]
  },
  "AutoScalingGroup": {
    "AmiId": "AMI-ID"
    "SubnetIds": [
      "SUBNET_ID",
      "SUBNET_ID"
    ]
  }
}
```

3. CreateRfc JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。例では CreateOnetierStackRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateOnetierStackRfc.json
```

4. 必要に応じて RFC テンプレートを変更し、保存します。スケジュールされた RFC の開始時刻と終了時刻をリセットするか、ASAP RFC の場合は中断します。

```
{
  "ChangeTypeVersion": 2.0,
  "ChangeTypeId": "ct-09t6q7j9v5hrn",
  "Title": "HA-One-Tier-RFC",
  "RequestedStartTime": "2019-04-28T22:45:00Z",
  "RequestedEndTime": "2019-04-28T22:45:00Z"
}
```

5. CreateOnetierStackRfc.json ファイルと CreateOnetierStackParams.json 実行パラメータファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateOnetierStackRfc.json --
execution-parameters file://CreateOnetierStackParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

これは、特に UserData を追加する場合、リソースの大規模なプロビジョニングです。ロードバランサーの Amazon リソース名 (ARN) は、RFC 実行出力で返された Load Balancer スタック ID で検索することで、EC2 コンソールのロードバランサーページから確認できます。

IAM エンティティまたはポリシーを作成する (レビューが必要)

コンソールを使用した IAM リソースの作成 (レビューが必要)

仕組み:

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した IAM リソースの作成 (レビューが必要)

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

Note

ポリシードキュメントに貼り付ける場合、RFC は最大 20,480 文字のポリシー貼り付けのみを受け入れることに注意してください。ファイルに 20,480 文字を超える場合は、ポリシーをアップロードするサービスリクエストを作成し、IAM 用に関いた RFC でそのサービスリクエストを参照します。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3dpd8mdd9jn1r" --change-type-version "1.0"
--title "TestIamCreate" --execution-parameters "{\"UseCase\": \"IAM_RESOURCE_DETAILS\",
\"IAM Role\": [{\"RoleName\": \"ROLE_NAME\", \"TrustPolicy\": \"TRUST_POLICY\",
\"RolePermissions\": \"ROLE_PERMISSIONS\"}], \"Operation\": \"Create\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例では `CreatelamResourceParams.json`:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3dpd8mdd9jn1r"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateIamResourceParams.json
```

2. CreatelamResourceParams ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "UseCase": "IAM_RESOURCE_DETAILS",
  "IAM Role": [
    {
      "RoleName": "codebuild_ec2_test_role",
      "TrustPolicy": {
        "Version": "2008-10-17",
        "Statement": [
          {
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
              "Service": "codebuild.amazonaws.com"
            },
            "Action": "sts:AssumeRole"
          }
        ]
      },
      "RolePermissions": {
        "Version": "2012-10-17",
        "Statement": [
          {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
              "ec2:DescribeInstanceStatus"
            ],
            "Resource": "*"
          }
        ]
      }
    }
  ],
  "Operation": "Create"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを CreatelamResourceRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateIamResourceRfc.json
```

4. CreatelamResourceRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-3dpd8mdd9jn1r",  
  "Title": "Create IAM Role"  
}
```

5. CreatelamResourceRfc ファイルと CreatelamResourceParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateIamResourceRfc.json --  
execution-parameters file://CreateIamResourceParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- アカウントに IAM ロールがプロビジョニングされたら、フェデレーションソリューションでロールをオンボードする必要があります。
- ポリシードキュメントに貼り付ける場合、RFC は最大 20,480 文字のポリシー貼り付けのみを受け入れることに注意してください。ポリシーに 20,480 文字を超える場合は、ポリシーをアップロードするサービスリクエストを作成し、IAM 用に関く RFC でそのサービスリクエストを参照します。
- これは「レビューが必要」変更タイプです (AMS オペレーターは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります。RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、「レビュー必須」変更タイプ RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。
- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および「[管理ポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、「[IAM リソースのデプロイ](#)」を参照してください。

カスタム CloudFormation スタックのロールバックを続行する

コンソールを使用して CloudFormation 取り込みスタックの失敗した更新をロールバックする

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して CloudFormation 取り込みスタックの失敗した更新をロールバックし続ける

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実

行パラメータ用) のいずれかを使用し、2つのファイルを入力としてcreate-rfcコマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-32r1igwrwag4i" --change-type-version "1.0"
--title "Continue Update Rollback" --execution-parameters "{\"StackId\": \"STACK_ID\",
\"Region\": \"REGION\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを現在のフォルダのファイルに出力します。この例では ContinueRollbackParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-32r1igwrwag4i"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
ContinueRollbackParams.json
```

2. ContinueRollbackParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "StackId": "stack-a1b2c3d4e5f67890e",
  "Region": "us-east-1",
  "Priority": "High"
}
```

3. CreateRfc の JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では ContinueRollbackRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ContinueRollbackRfc.json
```

4. ContinueRollbackRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-32r1igwrwag4i",
  "Title": "Continue Update Rollback"
}
```

5. ContinueRollbackRfc ファイルと実行パラメータファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ContinueRollbackRfc.json --execution-
parameters file://ContinueRollbackParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

詳細については、[「更新のロールバックを続ける」](#)を参照してください。

VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する

コンソールを使用して VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して VPC サブネット IPv4 アドレスの自動割り当てを管理する

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1pqxczuw5uwu6" --change-type-version "1.0"
--title "AWSManagedServices-ManageSubnetPublicIpv4AutoAssign" --execution-parameters
{"\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-ManageSubnetPublicIpv4AutoAssign\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"SubnetId\": \"subnet-0a1b2c3d4e5f67890\", \"MapPublicIpOnLaunch\": true, \"AcknowledgeNetworkImpact\": [\"Yes\"]}}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、ManageSubnetAutoAddressParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1pqxczuw5uwu6"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
ManageSubnetAutoAddressParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-ManageSubnetPublicIpv4AutoAssign",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "SubnetId": "subnet-0a1b2c3d4e5f67890",
    "MapPublicIpOnLaunch": true,
    "AcknowledgeNetworkImpact": [
      "Yes"
    ]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では、ManageSubnetAutoAddressRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ManageSubnetAutoAddressRfc.json
```

4. ManageSubnetAutoAddressRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
  "ChangeTypeId" : "ct-1pqxczuw5uwu6",
  "Title" : "ManageSubnetAutoAddress"
}
```

5. ManageSubnetAutoAddressRfc ファイルと ManageSubnetAutoAddressParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ManageSubnetAutoAddressRfc.json --
execution-parameters file://ManageSubnetAutoAddressParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

VPC とサブネットのアドレス指定に関する一般的な情報については、[VPCsとサブネットの IP アドレス指定](#)」を参照してください。

スケジュールの追加

コンソールを使用した AMS Resource Scheduler スケジュールの追加

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した AMS Resource Scheduler スケジュールの追加

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

`\"]}]}`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rtc --change-type-id "ct-2bxelbn765ive" --change-type-version
"1.0" --title "Add a schedule for AMS Resource Scheduler" --execution-parameters
"{\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-AddOrUpdateSchedule\", \"Region\":
\"us-east-1\", \"Parameters\": {\"Action\": [\"add\"], \"Name\": [\"Schedule01\"],
\"Description\": [\"Test schedule\"], \"Hibernate\": [\"true\"], \"Enforced\":
[\"false\"], \"OverrideStatus\": [\"running\"], \"Periods\": [\"period01\", \"period02\"],
\"RetainRunning\": [\"false\"], \"StopNewInstances\": [\"true\"], \"SSMMaintenanceWindow\":
[\"window01\"], \"TimeZone\": [\"Australia/Sydney\"], \"UseMaintenanceWindow\": [\"true\"],
\"UseMetrics\": [\"false\"]}}"
```

テンプレート作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では AddScheduleParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2bxelbn765ive" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > AddScheduleParams.json
```

2. AddScheduleParams ファイルを変更して保存します。

```
{
  "DocumentName" : "AWSManagedServices-AddOrUpdateSchedule",
  "Region" : "us-east-1",
  "Parameters" : {
    "Action" : ["add"],
    "Name" : ["Schedule01"],
    "Description" : ["Test schedule"],
    "Hibernate" : ["true"],
    "Enforced" : ["false"],
    "OverrideStatus" : ["running"],
    "Periods" : [
```

```
    "period01",
    "period02"
  ],
  "RetainRunning" : ["false"],
  "StopNewInstances" : ["true"],
  "SSMMaintenanceWindow" : ["window01"],
  "TimeZone" : ["Australia/Sydney"],
  "UseMaintenanceWindow" : ["true"],
  "UseMetrics" : ["false"]
}
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では AddScheduleRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > AddScheduleRfc.json
```

4. AddScheduleRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion":    "1.0",
  "ChangeTypeId":        "ct-2bxelbn765ive",
  "Title":                "Add a schedule for AMS Resource Scheduler"
}
```

5. RFC を作成し、AddScheduleRfc ファイルと AddScheduleParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://AddScheduleRfc.json --execution-parameters file://AddScheduleParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- メンテナンスウィンドウ名を「mw-」で開始しないでください。
- 詳細については、[「AMS Resource Scheduler の仕組み」](#)を参照してください。
- AMS リソーススケジューラは AWS Instance Scheduler に基づいています。詳細については、[「AWS Instance Scheduler」](#)を参照してください。

EBS スナップショットの削除 (レビューが必要)

削除するスナップショットに関する追加のヘルプや通信が必要な場合は、[こちら](#)を使用します。

コンソールを使用した EBS スナップショットの削除 (レビューが必要)

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs ソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加の設定領域を開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した EBS スナップショットの削除 (レビューが必要)

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1vrnixswq1uwf" --change-type-version "1.0" --
title "Delete EBS Snapshot (Review Required)" --execution-parameters "{\"SnapshotIds\":
[\"snap-0a1b2c3d4e5f67890\", \"snap-1a2b3c4d5e6f78901\"], \"AMI\": \"No\", \"Region\":
\"us-east-1\", \"Priority\": \"Medium\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では DeleteEbsSnpstRrParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1vrnixswq1uwf"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeleteEbsSnpstRrParams.json
```

2. DeleteEbsSnpstRrParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "SnapshotIds": [
    "snap-0a1b2c3d4e5f67890",
    "snap-1a2b3c4d5e6f78901"
  ],
  "AMI": "No",
  "Region": "us-east-1",
  "Priority": "Medium"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では DeleteEbsSnpstRrRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeleteEbsSnpstRrRfc.json
```

4. DeleteEbsSnpstRrRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1vrnixswq1uwf",
  "Title": "EBS-Snapshot-Delete-RR-RFC"
}
```

5. RFC を作成し、DeleteEbsSnpstRrRfc ファイルと DeleteEbsSnpstRrParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeleteEbsSnpstRrRfc.json --
execution-parameters file://DeleteEbsSnpstRrParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon EBS スナップショットの詳細については、[「Amazon EBS スナップショット」](#)を参照してください。

SNS トピックを更新する

コンソールで SNS トピックを更新する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI で SNS トピックを更新する

仕組み：

- インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

INLINE CREATE (最小パラメータ):

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0zzf0fjz76jmb" --change-type-version "1.0"
--title "Update SNS Topic" --execution-parameters "{\"TopicArn\": \"arn:aws:sns:us-
east-1:123456789101:My-SNS-Topic\", \"Priority\": \"Medium\", \"Parameters\":
{\"DisplayName\": \"My-SNS-Topic\", \"KmsMasterKeyId\": \"arn:aws:kms:us-
east-1:123456789101:key/cfe0542d-3be9-4166-9eac-d0cd6af61445\"}]}"
```

テンプレート作成 (すべてのパラメータ):

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、SnsUpdateParams.json。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3rcl9u1k017wu" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > SnsUpdateParams.json
```

2. SnsUpdateParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "TopicArn": "arn:aws:sns:us-east-1:123456789101:Test-Stack",
  "Parameters": {
    "DisplayName": "My-Test-Stack",
    "DeliveryPolicy": "{\"http\":{\"defaultHealthyRetryPolicy\":{\"minDelayTarget\":20,
\"maxDelayTarget\":20,\"numRetries\":3,\"numMaxDelayRetries\":0,
\"numNoDelayRetries\":0,\"numMinDelayRetries\":0,\"backoffFunction\":
\"linear\"},\"disableSubscriptionOverrides\":false,\"defaultRequestPolicy\":
{\"headerContentType\":\"text/plain; charset=UTF-8\"}}}",
    "DataProtectionPolicy": "{\"Name\":\"__example_data_protection_policy\",
\"Description\":\"Exampledataprotectionpolicy\", \"Version\":
\"2021-06-01\", \"Statement\": [{\"DataDirection\":\"Inbound\", \"Principal\":
[\"arn:aws:iam::123456789101:user/ExampleUser\"], \"DataIdentifier\":
[\"arn:aws:dataprotection::aws:data-identifier/CreditCardNumber\"], \"Operation\":
[\"Deidentify\":{\"MaskConfig\":{\"MaskWithCharacter\":\"#\"}}]}]}",
    "KmsMasterKeyARN": "arn:aws:kms:ap-southeast-2:123456789101:key/
bb43bd18-3a75-482e-822d-d0d3a5544dc8",
    "TracingConfig": "Active"
  },
  "Priority": "Medium"
}
```

```
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを SnsUpdateRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > SnsUpdateRfc.json
```

4. SnsUpdateRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-0zzf0fjz76jmb",  
  "Title": "Update-SNS-RFC"  
}
```

5. RFC を作成し、SnsUpdate Rfc ファイルと SnsUpdateParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://SnsUpdateRfc.json --execution-parameters file://SnsUpdateParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

AWS Simple Notification Service (SNS) の詳細については、[「Amazon Simple Notification Service」](#)を参照してください。[Amazon SNS の開始方法も参照してください。](#)

S3 アクセスポイントを作成する

コンソールを使用した S3 アクセスポイントの作成

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した S3 アクセスポイントの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title="Add Static Route" --description="Create an access point
and associate it with the specified S3 bucket." --ct-id="ct-1elb1vtam0ka5" --ct-
version="1.0" --input-params="{\"Access Point Name\": \"accesspoint1\", \"Bucket Name\":
\"s3bucket1\", \"Network Origin\": \"VPC\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、CreateS3AccessPointParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1elb1vtam0ka5"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateS3AccessPointParams.json\"Access Point Policy\": \"Example access point
policy\"
```

2. CreateS3AccessPointParams ファイルを変更して保存します。

```
{
  "Access Point Name": "accesspoint1",
  "Bucket Name": "s3bucket1",
  "Network Origin": "VPC",
  "Vpc Id": "vpc-12345678"
  "Access Point Policy": "Example access point policy"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを CreateS3AccessPointRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateS3AccessPointRfc.json
```

4. CreateS3AccessPointRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion":    "1.0",
  "ChangeTypeId":        "ct-1e1b1vtam0ka5",
  "Title":                "S3-Accesspoint-Create-RFC"
}
```

5. RFC を作成し、CreateS3AccessPointRfc ファイルと CreateS3AccessPointParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateS3AccesspointRfc.json --
execution-parameters file://CreateS3AccesspointParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon S3 の詳細については、[「Amazon Simple Storage Service ドキュメント」](#)を参照してください。

カスタム RDS パラメータグループの作成

コンソールを使用した管理者アクセスのリクエスト

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTsソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した管理者アクセスのリクエスト

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3da2lxapopb86" --change-type-version "1.0" --title "Create Custom RDS Parameter Group" --execution-parameters "{\"ParameterGroupName\": \"my-db-parameter-group\", \"ParameterGroupFamily\": \"mysql5.6\", \"Description\": \"A meaningful description of the parameter group\", \"Priority\": \"Medium\", \"Parameters\": [{\"ParameterName\": \"max_connections\", \"ParameterValue\": \"100\"}], \"RDSInstanceName\": \"my-test-db\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では RDSCreateParameterGroupParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3da2lxapopb86" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > RDSCreateParameterGroupParams.json
```

RDSCreateParameterGroupParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ParameterGroupName": "my-db-parameter-group",
  "ParameterGroupFamily": "mysql5.6",
  "Description": "A meaningful description of the parameter group",
  "Priority": "Medium",
```

```
"Parameters": [  
  {  
    "ParameterName": "max_connections",  
    "ParameterValue": "100"  
  }  
],  
"RDSInstanceName": "my-test-db"  
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では、RDSCreateParameterGroupRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > RDSCreateParameterGroupRfc.json
```

3. RDSCreateParameterGroupRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeId": "ct-3da2lxapopb86",  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "Title": "Create Custom RDS Parameter Group"  
}
```

4. RDSCreateParameterGroupRfc ファイルと GRDSCreateParameterGroupParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://RDSCreateParameterGroupRfc.json --  
execution-parameters file://GRDSCreateParameterGroupParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

Amazon S3 バケットにイベント通知を追加する

Amazon S3 コンソールを使用して S3 バケットにイベント通知を追加する Amazon S3

以下は、AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショットです。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して S3 バケットにイベント通知を追加する

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email": {"EmailRecipients": ["email@example.com"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0o4zi9bzb74lp" --change-type-version
"1.0" --title "Add event notification" --execution-parameters "{ \"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-AddBucketEventNotification\", \"Region\": \"us-
east-1\", \"Parameters\": { \"BucketName\": \"bucketname\", \"EventName\":
\"eventname\", \"Prefix\": \"foo\", \"Suffix\": \".bar\", \"EventTypes\":
[ \"s3:ObjectCreated:Post\", \"s3:ObjectCreated:Put\" ], \"DestinationARN\":
\"arn:aws:lambda:us-east-1:123456789012:function:functionname\" } }"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、AddEventNotificationS3Params.json。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-220bdb8blaixf"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
AddEventNotificationS3Params.json
```

2. AddEventNotificationS3Params ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-AddBucketEventNotification",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "BucketName": "bucketname",
    "EventName": "eventname",
    "Prefix": "foo",
    "Suffix": ".bar",
    "EventTypes": [
      "s3:ObjectCreated:Post",
      "s3:ObjectCreated:Put"
    ],
    "DestinationARN": "arn:aws:lambda:us-east-1:123456789012:function:functionname"
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを AddEventNotificationS3Rfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > AddEventNotificationS3Rfc.json
```

4. AddS3LifecycleConfigRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0o4zi9bzbz74lp",
  "Title": "Add Event Notification"
}
```

5. RFC を作成し、AddEventNotificationS3Rfc ファイルと AddEventNotificationS3Params ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://AddEventNotificationS3Rfc.json --
execution-parameters file://AddEventNotificationS3Params.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

AMS 自動 IAM プロビジョニングのカスタム拒否リストを更新する

コンソールでカスタム拒否リストを更新する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、古いバージョンで作成オプションが RFC の作成ボタンの横に表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI でカスタム拒否リストを更新する

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2r9xvd3sdsic0" --change-type-version "1.0" --
title "Update custom deny list for Automated IAM Provisioning" --execution-parameters
{"CustomerCustomDenyActionsList1": {"ec2:RunInstances, s3:PutBucket, sagemaker:*"},
Priority: "High"}
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを CustomerCustomDenyActionsList.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2r9xvd3sdsic0"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CustomerCustomDenyActionsList.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CustomerCustomDenyActionsList",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "CustomerCustomDenyActionsList1": "ec2:RunInstances,s3:PutBucket,sagemaker:*",
    "Priority": "High"
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CustomerCustomDenyActionsListRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton >
CustomerCustomDenyActionsListRfc.json
```

4. CustomerCustomDenyActionsListRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2r9xvd3sdsic0",
  "Title": "Update custom deny list for Automated IAM Provisioning"
}
```

5. CreateAcmPidlicRfc ファイルと CreateAcmPidlicParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CustomerCustomDenyActionsListRfc.json
--execution-parameters file://CustomerCustomDenyActionsListParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを SALZ アカウントの Route 53 に移行する (レビューが必要)

コンソールを使用して AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを Route 53 (SALZ) に移行する AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、古いバージョンで作成オプションが RFC の作成ボタンの横に表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用して AWS マネージドアカウント DNS リゾルバーを Route 53 (SALZ) に移行する

仕組み：

- インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

必須パラメータのみ :

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2tqi3kjcusen4" --change-type-version "1.0" --title "Migrate AWS managed Microsoft AD to Route 53 DNS resolver for SALZ accounts" --execution-parameters "{}"
```

すべての必須パラメータとオプションパラメータ :

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2tqi3kjcusen4" --change-type-version "1.0" --title "Migrate AWS managed Microsoft AD to Route 53 DNS resolver for SALZ accounts" --execution-parameters "{\"Priority\": \"Medium\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを CreateMigrateToRoute53RequiredParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2tqi3kjcusen4" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateMigrateToRoute53RequiredParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Priority": "Medium"
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateMigrateToRoute53RequiredRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateMigrateToRoute53RequiredRfc.json
```

4. CreateMigrateToRoute53RequiredRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId":      "ct-2tqi3kjcusen4",
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "Title":             "Migrate AWS managed Microsoft AD to Route 53 DNS resolver
                        for SALZ accounts"
}
```

5. CreateMigrateToRoute53RequiredRfc ファイルと CreateMigrateToRoute53RequiredParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateMigrateToRoute53RequiredRfc.json
--execution-parameters file://CreateMigrateToRoute53RequiredParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

これは「レビュー必須」変更タイプです (AMS オペレータは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります、RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、「レビュー必須」変更タイプ RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

VPC からリゾルバールールの関連付けを解除する

コンソールで VPC からリゾルバールールの関連付けを解除する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

VPC からリゾルバールールと CLI の関連付けを解除する

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws --profile saml --region us-east-1 amscm create-rfc --change-type-id
"ct-3e3prksxmdhw8" --change-type-version "2.0" --title "AMI-Create-IC" --
execution-parameters "{\"AMIName\": \"MyAmi\", \"VpcId\": \"VPC_ID\", \"EC2InstanceId\":
\"INSTANCE_ID\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、CreateAmiFromAsgParams.json:

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3e3prksxmdhw8" --change-type-version
"1.0" --title "Create AMI from an Auto Scaling group" --execution-parameters
"{\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-CreateAmiInAutoScalingGroup\", \"Region
\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"AutoScalingGroupName\": [\"stack-ab0123cdef-
ASG-1ABC2345\"], \"Sysprep\": [\"False\"], \"StopInstance\": [\"False\"]}}"
```

2. 実行パラメータ CreateAmiFromAsgParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateAmiInAutoScalingGroup",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "AutoScalingGroupName": [
      "stack-ab0123cdef-ASG-1ABC2345"
    ],
    "Sysprep": [
      "False"
    ],
    "StopInstance": [
      "False"
    ]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateAmiFromAsgRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateAmiFromAsgRfc.json
```

4. CreateAmiFromAsgRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-3e3prksxmdhw8",
  "Title": "Create AMI from an Auto Scaling group"
}
```

5. CreateAmiFromAsgRfc ファイルと CreateAmiFromAsgParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateAmiFromAsgRfc.json --execution-parameters file://CreateAmiFromAsgParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

拡張モニタリングの更新

コンソールを使用した拡張モニタリングの更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した拡張モニタリングの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-3jx80fquylzhf" --change-type-
version "1.0" --title "Update Enhanced Monitoring" --execution-parameters
"{\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-UpdateRDSEnhancedMonitoring\", \"Region
\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"DBIdentifierArn\": [\"arn:aws:rds:us-
```

```
east-1:000000000000:db:testdbinstance\"], \"MonitoringInterval\": [\"60\"],,  
\"MonitoringRoleName\": \"ds-monitoring-role\"}]}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを RotateRdsCertParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3jx80fqyylzhf"  
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >  
UpdateRDSEnhancedMonitoringParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateRDSEnhancedMonitoring",  
  "Region": "us-east-1",  
  "Parameters": {  
    "DBIdentifierArn": "arn:aws:rds:us-east-1:000000000000:db:testdbinstance",  
    "MonitoringInterval": "60",  
    "MonitoringRoleName": [  
      "rds-monitoring-role"  
    ]  
  }  
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダのファイルに出力します。この例では UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc.json
```

4. UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-3jx80fqyylzhf",  
  "Title": "Update Enhanced Monitoring"  
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateRDSEnhancedMonitoringRfc.json --
execution-parameters file://UpdateRDSEnhancedMonitoringParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

VPC をリゾルバールールに関連付ける

コンソールを使用した管理者アクセスのリクエスト

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した管理者アクセスのリクエスト

仕組み：

- インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title="Associate VPC with Resolver Rule" --ct-id="ct-2pbqoffhclpek" --ct-version="1.0" --execution-parameters "{\"Description\": \"Associate VPC with Resolver Rule\", \"ResolverRuleId\": \"rslvr-rr-974b1666869a4d27b\", \"VPCId\": \"vpc-02a18ed0cd3c17e71\"}"
```

テンプレートの作成：

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では、VPCAssociateResolverRule.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2pbqoffhclpek" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > VPCAssociateResolverRule.json
```

2. 実行パラメータを変更して VPCAssociateResolverRuleParams.json. たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-AssociateVPCWithResolverRule",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "Name": "resolver-rule-associate-vpc-test",
    "ResolverRuleId": "rslvr-rr-1234567890abcdefg",
    "VPCId": "vpc-1a2b3c4d"
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では、VPCAssociateResolverRuleRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > VPCAssociateResolverRuleRfc.json
```

4. VPCAssociateResolverRuleRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
```

```
"ChangeTypeId" : "ct-2pbqoffhclpek",  
"Title" : "Associate VPC with Resolver Rule "  
}
```

5. RFC を作成し、VPCAssociateResolverRuleRfc ファイルと VPCAssociateResolverRuleParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://VPCAssociateResolverRuleRfc.json --  
execution-parameters file://VPCAssociateResolverRuleParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

AMS パターンをデプロイする (レビューが必要)

コンソールを使用した AMS パターンのデプロイ (レビューが必要)

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット :

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した AMS パターンのデプロイ (レビューが必要)

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

`\"]}]}`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2jndrh7uit8uf" --change-type-version
"1.0" --title "Deploy AMS Patterns" --execution-parameters "{ \"PatternName
\": \"amsEbsVolumeSnapshotTagger\", \"PatternParameters\": \"{\ \"ExcludedTags\":
\ \"BackupProd, Backup\", \"ASMGuardRail\": \"enabled\" }\", \"OrganizationalUnit\":
\ \"ou-9dyd-s2vptest\" }\" }
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では DeployAMSPatternsParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2jndrh7uit8uf"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeployAMSPatternsParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "PatternName": "amsEbsVolumeSnapshotTagger",
  "ExcludeAccounts": ["123456789012"],
  "OrganizationalUnitIds": ["ou-9dyd-jvsei4yg"],
  "Priority": "Medium",
  "PatternParameters": [
    {
      "Name": "Foo",
      "Value": "Bar"
    }
  ]
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では DeployAMSPatternsRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeployAMSPatternsRfc.json
```

4. DeployAMSPatternsRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2jndrh7uit8uf",
  "Title": "Deploy AMS Patterns"
}
```

5. DeployAMSPatternsRfc ファイルと DeployAMSPatternsParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeployAMSPatternsRfc.json --execution-parameters file://DeployAMSPatternsParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

キーの共有 AWS KMS

コンソールで AWS KMS キーを共有する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI と AWS KMS キーを共有する

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title="Add Static Route" --description="Share KMS Key"
--ct-id="ct-05yb337abq3x5" --ct-version="1.0" --input-params="{\"KMSKeyArn\":
\"arn:aws:kms:us-east-1:111122223333:key/06506094-64e2-47f3-94bd-f919eefa22f5\",
\"TargetAccountId\": \"000000000000\", \"IncludeKeyGrantOperations\": \"false\",
\"IAMUserOrRole\": \"arn:aws:iam::000000000000:role/role-name\", \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、ShareKmsKeyParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-05yb337abq3x5" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > ShareKmsKeyParams.json
```

ShareKmsKeyParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Description": "Share KMS Key",
  "Parameters": {
    "KMSKeyArn": "arn:aws:kms:us-east-1:111122223333:key/06506094-64e2-47f3-94bd-
f919eefa22f5",
    "TargetAccountId": "000000000000",
```

```
"IncludeKeyGrantOperations": "false"
  "IAMUserOrRole": "arn:aws:iam::000000000000:role/role-name"
}
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では ShareKmsKeyParamsRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ShareKmsKeyParamsRfc.json
```

3. ShareKmsKeyParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId": {
    "ChangeTypeVersion": "1.0",
    "ChangeTypeId": "ct-05yb337abq3x5",
    "Title": "Share KMS Key"
  }
}
```

4. ShareKmsKeyParamsRfc ファイルと ShareKmsKeyParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ShareKmsKeyParamsRfc.json --execution-parameters file://ShareKmsKeyParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

踏み台を介してインスタンスにログインするには、次の手順「[インスタンスアクセスの例](#)」に従います。

Active Directory 信頼の作成

コンソールでの AD 信頼の追加

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI での AD 信頼の追加

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

- 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0x6dylrnfjgz5" --change-type-version "1.0" --
title "Create AD Trust" --execution-parameters '
{"DocumentName":"AWSManagedServices-CreateADTrust","Region":"ap-
southeast-2","Parameters":{"DirectoryId":["d-976774e42f"],"RemoteDomainName":
["onprem.local"],"SecretArn":["arn:aws:secretsmanager:ap-
southeast-2:996606605561:secret:customer-shared/CorrectTPW-BI79uu"],"TrustType":
["External"],"ConditionalForwarderIpAddresses":["10.153.28.39]}}
```

テンプレートの作成 :

- この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、CreateADTrustParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0x6dylrnfjgz5" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateADTrustParams.json
```

CreateADTrustParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateADTrust",
  "Region": "ap-southeast-2",
  "Parameters": {
    "DirectoryId": [
      "d-976774e42f"
    ],
    "RemoteDomainName": [
      "onprem.local"
    ],
    "SecretArn": [
      "arn:aws:secretsmanager:ap-southeast-2:996606605561:secret:customer-shared/
CorrectTPW-BI79uu"
    ],
    "TrustType": [
      "External"
    ],
    "ConditionalForwarderIpAddresses": [
      "10.153.28.39"
    ]
  }
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateADTrustRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateADTrustRfc.json
```

3. CreateADTrustRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId": "ct-0x6dylrnfjgz5",
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "Title": "Active Directory Trust"
}
```

```
}
```

4. CreateADTrustRfc ファイルと CreateADTrustParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateADTrustRfc.json --execution-parameters file://CreateADTrustParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Directory Service の詳細については、[「Directory Service 管理者ガイド」](#)を参照してください。

スタックアクセス期間を上書きする (レビューが必要)

コンソールでスタックアクセス期間を上書きする

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI でスタックアクセス期間を上書きする

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

"\]}}}"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title="Override Stack Access Duration" --description="Override Stack Access Duration" --ct-id="ct-0jb01cofkhwk1" --ct-version="1.0" --input-params="{\"TimeRequestedInHours\": 15,\"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、OverrideStackAccessDurationParameters.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0jb01cofkhwk1" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > OverrideStackAccessDurationParameters.json
```

2. OverrideStackAccessDurationParameters.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "TimeRequestedInHours": 15,
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを OverrideStackAccessDuration.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > OverrideStackAccessDuration.json
```

4. OverrideStackAccessDuration.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
```

```
"ChangeTypeId": "ct-0jb01cofkhwk1",  
"Title": "Override Stack Access Duration"  
}
```

5. RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://OverrideStackAccessDuration.json --  
execution-parameters file://OverrideStackAccessDurationParameters.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

読み取り/書き込みアクセス許可を使用して自動 IAM プロビジョニングを有効にする

コンソールで読み取り/書き込みアクセス許可による自動 AWS Identity and Access Management プロビジョニングを有効にする

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI で読み取り/書き込みアクセス許可による自動 AWS Identity and Access Management プロビジョニングを有効にする

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\" : {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com`

`\"]}]}`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1706xvvk6j9hf" --change-type-version "1.0"
--title "Enable (review required)" --execution-parameters "{ \"SAMLIdentityProviderArns\
\": [ \"arn:aws:iam::123456789012:saml-provider/customer-saml\" ], \"IamEntityArns\":
[ \"arn:aws:iam::123456789012:role/test-role-one\", \"arn:aws:iam::123456789012:role/
test-role-two\" ], \"Priority\": \"High\" } }
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では EnableAutomatedIAMProvisioningParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1706xvvk6j9hf"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
EnableAutomatedIAMProvisioningParams.json
```

2. EnableAutomatedIAMProvisioningParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "SAMLIdentityProviderArns": [ "arn:aws:iam::123456789012:saml-provider/customer-
saml" ],
  "IamEntityArns": [ "arn:aws:iam::123456789012:role/test-role-one",
"arn:aws:iam::123456789012:role/test-role-two" ],
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを EnableAutomatedIAMProvisioningRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton >
EnableAutomatedIAMProvisioningRfc.json
```

4. EnableAutomatedIAMProvisioningRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion":    "1.0",
  "ChangeTypeId":        "ct-1706xvvk6j9hf",
  "Title":                "Enable-Automated-IAM-Provisioning-RFC"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateSecurityPolicy Rfc ファイルと UpdateSecurityPolicyParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://EnableAutomatedIAMProvisioningRfc.json
  --execution-parameters file://EnableAutomatedIAMProvisioningParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

VPC 静的ルートを追加する (レビューが必要)

コンソールで静的ルートを追加する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs ソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI での静的ルートの追加

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create Rfc` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rtc --title="Add Static Route" --description="Add static route"
--ct-id="ct-06bww93ukgg8t" --ct-version="1.0" --input-params="{\"RouteTableId
\": \"rtb-0123abcd\", \"DestinationCidrBlock\": \"172.31.0.0/16\", \"Target\":
\"pcx-0123456789abcdefg\", \"Priority\": \"High\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では `EncryptAmiParams.json`:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-06bww93ukgg8t" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > AddStaticRouteParams.json
```

2. 実行 `AddStaticRouteParams.json` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "RouteTableId": "rtb-0123abcd",
  "DestinationCidrBlock": "172.31.0.0/16",
  "Target": "pcx-0123456789abcdefg",
  "Priority": "High"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では `AddStaticRouteRfc.json`:

```
aws amscm create-rtc --generate-cli-skeleton > AddStaticRouteRfc.json
```

4. `AddStaticRouteRfc.json` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-06bwg93ukgg8t",
  "Title": "Add static route"
}
```

5. AddStaticRouteRfc ファイルと AddStaticRouteParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://AddStaticRouteRfc.json --execution-parameters file://AddStaticRouteParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

VPCs [「仮想プライベートクラウド \(VPC\)」](#) を参照してください。

IAM エンティティまたはポリシーを作成する

コンソールを使用した IAM エンティティまたはポリシーの作成

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した IAM エンティティまたはポリシーの作成

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1n9gfnog5x7f1" --change-type-version "1.0" --title "Create role or policy" --execution-parameters '{"DocumentName":"AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningCreate-Admin","Region":"us-east-1","Parameters":{"ValidateOnly":"No"},"RoleDetails":{"Roles":[{"RoleName":"RoleTest01","Description":"This is a test role","AssumeRolePolicyDocument":{"Version": "2012-10-17", "Statement":[{"Effect":"Allow","Principal":{"AWS":"arn:aws:iam::123456789012:root"},"Action":"sts:AssumeRole"}]}],"ManagedPolicyArns":["arn:aws:iam::123456789012:policy/policy01","arn:aws:iam::123456789012:policy/policy02"],"Path":"/","MaxSessionDuration":"7200","PermissionsBoundary":"arn:aws:iam::123456789012:policy/permission_boundary01","InstanceProfile":"No"}]},"ManagedPolicyDetails":{"Policies":[{"ManagedPolicyName":"TestPolicy01","Description":"This is customer policy","Path":"/test/","PolicyDocument":{"Version":"2012-10-17","Statement":[{"Sid":"AllQueueActions","Effect":"Allow","Action":"sqs:ListQueues","Resource":"*","Condition":{"ForAllValues:StringEquals":{"aws:tagKeys":["temporary"]}}}]}}]}}'
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例では `CreateIamResourceParams.json`:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1n9gfnog5x7f1" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateIamResourceParams.json
```

2. `CreateIamResourceParams` ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
```

```
"DocumentName": "AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningCreate-Admin",
"Region": "us-east-1",
"Parameters": {
  "ValidateOnly": "No"
},
"RoleDetails": {
  "Roles": [
    {
      "RoleName": "RoleTest01",
      "Description": "This is a test role",
      "AssumeRolePolicyDocument": {
        "Version": "2012-10-17",
        "Statement": [
          {
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
              "AWS": "arn:aws:iam::123456789012:root"
            },
            "Action": "sts:AssumeRole"
          }
        ]
      },
      "ManagedPolicyArns": [
        "arn:aws:iam::123456789012:policy/policy01",
        "arn:aws:iam::123456789012:policy/policy02"
      ],
      "Path": "/",
      "MaxSessionDuration": "7200",
      "PermissionsBoundary": "arn:aws:iam::123456789012:policy/
permission_boundary01",
      "InstanceProfile": "No"
    }
  ],
  "ManagedPolicyDetails": {
    "Policies": [
      {
        "ManagedPolicyName": "TestPolicy01",
        "Description": "This is customer policy",
        "Path": "/test/",
        "PolicyDocument": {
          "Version": "2012-10-17",
          "Statement": [
            {
```

```
"Sid": "AllQueueActions",
"Effect": "Allow",
"Action": "sqs:ListQueues",
"Resource": "*",
"Condition": {
  "ForAllValues:StringEquals": {
    "aws:tagKeys": [
      "temporary"
    ]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを `CreatelamResourceRfc.json`:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateIamResourceRfc.json
```

4. `CreatelamResourceRfc.json` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1n9gfnog5x7f1",
  "Title": "Create entity or policy (read-write permissions)"
}
```

5. `CreatelamResourceRfc` ファイルと `CreatelamResourceParams` ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateIamResourceRfc.json --
execution-parameters file://CreateIamResourceParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- IAM ロールがアカウントでプロビジョニングされた後、ロールとロールにアタッチするポリシードキュメントによっては、フェデレーションソリューションでロールをオンボードする必要がある場合があります。
- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および「[管理ポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、「[IAM リソースのデプロイ](#)」を参照してください。

IAM エンティティまたはポリシーを更新する

コンソールを使用した IAM エンティティまたはポリシーの更新

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した IAM エンティティまたはポリシーの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1e0xmuy1diafq" --change-type-version
"1.0" --title "Update role or policy" --execution-parameters "{\"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningUpdate-Admin\", \"Region
\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"ValidateOnly\": \"No\"}, \"RoleDetails
\": {\"Roles\": [{\"RoleName\": \"RoleTest01\", \"Description\": \"This is a test
role\", \"AssumeRolePolicyDocument\": {\"Version\": \"2012-10-17\",
\"Statement\": [{\"Effect\": \"Allow\", \"Principal\": {\"AWS\":
\"arn:aws:iam::123456789012:root\"}, \"Action\": \"sts:AssumeRole
\"}]}}\", \"ManagedPolicyArns\": [\"arn:aws:iam::123456789012:policy/policy01\",
\"arn:aws:iam::123456789012:policy/policy02\"], \"MaxSessionDuration\": \"7200\",
\"PermissionsBoundary\": \"arn:aws:iam::123456789012:policy/permission_boundary01\"
}], \"ManagedPolicyDetails\": {\"Policies\": [{\"ManagedPolicyName\": \"TestPolicy01\",
\"PolicyDocument\": {\"Version\": \"2012-10-17\", \"Statement\":
[{\"Sid\": \"AllQueueActions\", \"Effect\": \"Allow\", \"Action
\": \"sqs:ListQueues\", \"Resource\": \"*\", \"Condition\": {
\"ForAllValues:StringEquals\": {\"aws:tagKeys\": [\"temporary\"]}}]}]}\"}}\"}}
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例では UpdateIamResourceParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1e0xmuy1diafq"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateIamResourceParams.json
```

2. UpdateIamResourceParams ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningUpdate-Admin",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "ValidateOnly": "No"
  },
  "RoleDetails": {
    "Roles": [
      {
```

```

    "RoleName": "RoleTest01",
    "Description": "This is a test role",
    "AssumeRolePolicyDocument": {"Version": "2012-10-17", "Statement":
[{"Effect": "Allow", "Principal":
{"AWS": "arn:aws:iam::123456789012:root"}, "Action": "sts:AssumeRole"}]},
    "ManagedPolicyArns": [
      "arn:aws:iam::123456789012:policy/policy01",
      "arn:aws:iam::123456789012:policy/policy02"
    ],
    "MaxSessionDuration": "7200",
    "PermissionsBoundary": "arn:aws:iam::123456789012:policy/
permission_boundary01"
  }
]
},
"ManagedPolicyDetails": {
  "Policies": [
    {
      "ManagedPolicyName": "TestPolicy01",
      "PolicyDocument": {"Version": "2012-10-17", "Statement":
[{"Sid": "AllQueueActions", "Effect": "Allow", "Action": "sqs:ListQueues", "Resource": "*", "Condit
{"ForAllValues:StringEquals":{"aws:tagKeys":["temporary"]}]}]}]}
    }
  ]
}
}

```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを UpdateIamResourceRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateIamResourceRfc.json
```

4. UpdateIamResourceRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のよ うな内容に置き換えることができます。

```

{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1e0xmuy1diafq",
  "Title": "Update entity or policy (read-write permissions)"
}

```

5. RFC を作成し、UpdateIamResourceRfc ファイルと UpdateIamResourceParams ファイルを指 定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateIamResourceRfc.json --  
execution-parameters file://UpdateIamResourceParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#)」を参照してください。ポリシーの詳細については、「[マネージドポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、「[IAM リソースのデプロイ](#)」を参照してください。

IAM エンティティまたはポリシーを削除する

コンソールでの IAM エンティティまたはポリシーの削除

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した IAM エンティティまたはポリシーの削除

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com`

`\"]}]}`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-17cj84y7632o6" --change-type-version
"1.0" --title "Delete role or policy" --execution-parameters "{\"DocumentName
\": \"AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningDelete-Admin\", \"Region
\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"RoleName\": [\"TestRole01\", \"TestRole02\"],
\"ManagedPolicyName\": [\"TestPolicy01\", \"TestPolicy02\"]}}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例名は `DeletelamResourceParams.json`:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-17cj84y7632o6"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeleteIamResourceParams.json
```

2. `DeletelamResourceParams` ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "DocumentName" : "AWSManagedServices-HandleAutomatedIAMProvisioningDelete-Admin",
  "Region" : "us-east-1",
  "Parameters": {
    "RoleName": ["TestRole01", "TestRole02"],
    "ManagedPolicyName": ["TestPolicy01", "TestPolicy02"]
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを `DeletelamResourceRfc.json`:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeleteIamResourceRfc.json
```

4. DeletelamResourceRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-17cj84y7632o6",
  "Title": "Delete entity or policy (read-write permissions)"
}
```

5. RFC を作成し、DeletelamResourceRfc ファイルと DeletelamResourceParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeleteIamResourceRfc.json --
execution-parameters file://DeleteIamResourceParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および [「管理ポリシーとインラインポリシー」](#) を参照してください。

詳細モニタリングの更新

コンソールを使用した EC2 インスタンスの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した EC2 インスタンスの更新

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --title "Update EC2 detailed monitoring" -update --change-type-id ct-0tmpmp1wpgkr9 --change-type-version 1.0 --execution-parameters '{"DocumentName":"AWSManagedServices-UpdateInstanceEnhancedMonitoring","Region":"us-east-1","Parameters":{"InstanceIds":["i-09d65b13db992e8d4","i-0cdbc78ad80d2378c"]}}'
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では UpdateEc2MonitoringParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0tmpmp1wpgkr9" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateEc2MonitoringParams.json
```

2. UpdateEc2MonitoringParams ファイルを変更して保存し、変更するパラメータのみを保持します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateInstanceEnhancedMonitoring",
"Region": "us-east-1",
"Parameters": {
  "InstanceIds": [
    "i-09d65b13db992e8d4",
    "i-0cdbd78ad80d2378c"
  ],
  "MonitoringValue": "enabled"
}
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateEc2MonitoringRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateEc2MonitoringRfc.json
```

4. UpdateEc2MonitoringRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0tmpmp1wpgkr9",
  "Title": "EC2 Update Detailed Monitoring"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateEc2MonitoringRfc ファイルと UpdateEc2MonitoringParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateEc2MonitoringRfc.json --
execution-parameters file://UpdateEc2MonitoringParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon EC2 の詳細については、[「Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント」](#)を参照してください。

ディレクトリを共有する

コンソールでディレクトリを共有する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI とディレクトリを共有する

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-369odosk0pd9w" --change-type-version
"1.0" --title "Share Directory" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-ShareDirectory\", \"Region\": \"ap-southeast-2\", \"Parameters\":
{\"DirectoryId\": [\"d-123456ab7c\"], \"TargetAccountId\": [\"012345678912\"]}}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では DirectorySharingParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-369odosk0pd9w"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DirectorySharingParams.json
```

DirectorySharingParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-ShareDirectory",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DirectoryId": [
      "d-123456ab7c"
    ],
    "TargetAccountId": [
      "012345678912"
    ]
  }
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では DirectorySharingRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DirectorySharingRfc.json
```

3. DirectorySharingRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId": "ct-369odosk0pd9w",
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "Title": "Share Directory"
}
```

4. DirectorySharingRfc ファイルと DirectorySharingParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file:///DirectorySharingRfc.json --execution-parameters file:///DirectorySharingParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

関連する CTs [「 Directory Service Subcategory 」](#) を参照してください。

ディレクトリの共有解除

コンソールでディレクトリの共有を解除する

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と初期実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開いて、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI とのディレクトリの共有を解除する

仕組み：

- インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2xd2an1b5hbzo" --change-type-version
"1.0" --title "Unshare Directory" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\\\"AWSManagedServices-ShareDirectory\\\", \\\"Region\\\": \\\"ap-southeast-2\\\", \\\"Parameters\\\":
{\\\"DirectoryId\\\": [\\\"d-123456ab7c\\\"], \\\"UnshareTarget\\\": [\\\"012345678912\\\"]}}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では DirectoryUnsharingParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2xd2an1b5hbzo"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DirectoryUnsharingParams.json
```

DirectoryUnsharingParams.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UnshareDirectory",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DirectoryId": [
      "d-123456ab7c"
    ],
    "UnshareTarget": [
      "012345678912"
    ]
  }
}
```

2. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では DirectoryUnsharingRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DirectoryUnsharingRfc.json
```

- DirectoryUnsharingRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeId": "ct-2xd2an1b5hbzo",
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "Title": "Unshare Directory"
}
```

- DirectoryUnsharingRfc ファイルと DirectoryUnsharingParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DirectoryUnsharingRfc.json --
execution-parameters file://DirectoryUnsharingParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

関連する CTs [「 Directory Service Subcategory 」](#) を参照してください。

VPC エンドポイントを作成する

コンソールを使用した VPC エンドポイントの作成

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

- RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
- デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した VPC エンドポイントの作成

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rtc --change-type-id "ct-3oafbdbzjtupq" --change-type-version
"1.0" --title "Create VPC Endpoint" --execution-parameters "{\"Description\": \"VPC
endpoint interface\", \"VpcId\": \"vpc-1234567890abcdef0\", \"Name\": \"VPC endpoint
interface\", \"StackTemplateId\": \"stm-f0cumpt1rfc1p1739\", \"TimeoutInMinutes
\": 60, \"Parameters\": {\"VpcId\": \"vpc-1234567890abcdef0\", \"ServiceName\":
\"com.amazonaws.us-east-1.codedeploy\", \"SecurityGroups\": [\"sg-1234567890abcdef0\",
\"sg-1234567890abcdef1\"], \"SubnetIds\": [\"subnet-1234567890abcdef0\",
\"subnet-1234567890abcdef1\"], \"EnablePrivateDns\": \"false\"}]\"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを出力します。この例では VPCEndpointCreateParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-3oafbdbzjtupq"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
VPCEndpointCreateParams.json
```

2. 実行パラメータを変更して VPCEndpointCreateParams.json. たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Description": "VPC endpoint interface",
  "VpcId": "vpc-1234567890abcdef0",
```

```
"Name": "VPC endpoint interface",
"StackTemplateId": "stm-f0cumpt1rfc1p1739",
"TimeoutInMinutes": 60,
"Parameters": {
  "VpcId": "vpc-1234567890abcdef0",
  "ServiceName": "com.amazonaws.us-east-1.codedeploy",
  "SecurityGroups": [
    "sg-1234567890abcdef0",
    "sg-1234567890abcdef1"
  ],
  "SubnetIds": [
    "subnet-1234567890abcdef0",
    "subnet-1234567890abcdef1"
  ],
  "EnablePrivateDns": "false"
}
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを出力します。この例では VPCEndpointCreateRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > VPCEndpointCreateRfc.json
```

4. VPNGatewayCreateRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion" : "1.0",
  "ChangeTypeId" : "ct-3oafsdzbzjtuqp",
  "Title" : "Create VPC Endpoint "
}
```

5. VPCEndpointCreateRfc ファイルと VPCEndpointCreateParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://VPCEndpointCreateRfc.json --
execution-parameters file://VPCEndpointCreateParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

RDS ストレージを更新する

コンソールを使用した RDS ストレージの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した RDS ストレージの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0loed9dzig1ze" --change-type-version
"1.0" --title "Update RDS storage" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-UpdateRDSStorage\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\":
{\"DBInstanceIdentifier\": [\"rt123456789\"], \"AllocatedStorage\": [\"100\"],,
\"ApplyImmediately\": \"true\"}"
```

テンプレート作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateStorageParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0loed9dzig1ze" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateStorageParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateRDSStorage",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DBInstanceIdentifier": [
      "rt123456789"
    ],
    "AllocatedStorage": [
      "100"
    ],
    "ApplyImmediately": "false"
  }
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateStorageRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateStorageRfc.json
```

4. UpdateStorageRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0loed9dzig1ze",
  "Title": "Update RDS storage"
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateStorageRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateStorageRfc.json --execution-parameters file://UpdateStorageParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。「このスタックでは更新を実行できません。詳細については AMS にお問い合わせください。」

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

Aurora の RDS スタックを更新するには、[「RDS データベーススタック | 更新」](#)を参照してください。

RDS マルチ AZ デプロイを更新する

コンソールを使用した RDS マルチ AZ デプロイの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した RDS マルチ AZ デプロイの更新

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-36jq7gvwyty8h" --change-type-version
"1.0" --title "Update RDS Multiple AZ" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-UpdateRDSMultiAZ\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\":
{ \"DBInstanceIdentifier\": [\"rt123456789\"], \"MultiAZ\": \"true\", \"ApplyImmediately
\": \"true\"}}\"
```

テンプレート作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateMultipleAzParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-36jq7gvwyty8h"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateMultipleAzParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateRDSMultiAZ",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DBInstanceIdentifier": [
      "rt123456789"
    ],
  },
}
```

```
"MultiAZ": "true",
"ApplyImmediately": "false"
}
}
```

- JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateMultipleAzRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateMultipleAzRfc.json
```

- UpdateMultipleAzRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
"ChangeTypeVersion": "1.0",
"ChangeTypeId": "ct-36jq7gvwyty8h",
"Title": "Update RDS Multiple AZ"
}
```

- RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateMultipleAzRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateMultipleAzRfc.json --execution-parameters file://UpdateMultipleAzParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。「このスタックでは更新を実行できません。詳細については AMS にお問い合わせください。」

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

Aurora の RDS スタックを更新するには、[「RDS データベーススタック | 更新」](#)を参照してください。

RDS インスタンスタイプを更新する

コンソールで RDS インスタンスタイプを更新する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs ソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、古いバージョンで作成オプションが RFC の作成ボタンの横に表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT の詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した RDS インスタンスタイプの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-13swbwdxg106z" --change-type-version
"1.0" --title "Update rds instance type" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-UpdateRDSInstanceType\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\":
{ \"DBInstanceIdentifier\": [\"rt123456789\"], \"DBInstanceClass\": [\"db.m4.large\"],
\"ApplyImmediately\": \"true\" } }"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateInstanceTypeParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-13swbwdxg106z"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateInstanceTypeParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateRDSInstanceType",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "DBInstanceIdentifier": [
      "rt123456789"
    ],
    "DBInstanceClass": [
      "db.m4.large"
    ],
    "ApplyImmediately": "false"
  }
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateInstanceTypeRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateInstanceTypeRfc.json
```

4. UpdateInstanceTypeRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-13swbwdxg106z",
  "Title": "Update RDS instance type"
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateInstanceTypeRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateInstanceTypeRfc.json --
execution-parameters file://UpdateInstanceTypeParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。「このスタックでは更新を実行できません。詳細については AMS にお問い合わせください。」

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

Aurora の RDS スタックを更新するには、[「RDS データベーススタック | 更新」](#)を参照してください。

S3 バケットのバージョニングを更新する

コンソールを使用した S3 バケットのバージョニングの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューのすべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した S3 バケットのバージョンングの更新

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2hh93eyzmbkd" --change-type-version "1.0" --title "Update bucket versioning" --execution-parameters "{\"DocumentName\": \"AWSManagedServices-UpdateBucketVersioning\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\": {\"BucketName\": [\"BucketName\"], \"Versioning\": \"Enabled\"}}\"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateBucketVersioningParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2hh93eyzmbkd" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateBucketVersioningParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateBucketVersioning",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "BucketName": [
      "BucketName"
    ],
    "Versioning": "Enabled"
  }
}
```

```
}  
}
```

- JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateBucketVersioningRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateBucketVersioningRfc.json
```

- UpdateBucketVersioningRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-2hh93eyzmbkd",  
  "Title": "Update bucket versioning"  
}
```

- RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateRdsRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateBucketVersioningRfc.json --  
execution-parameters file://UpdateBucketVersioningParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon S3 の詳細については、[「Amazon Simple Storage Service ドキュメント」](#)を参照してください。

S3 バケットの暗号化を更新する

コンソールを使用した S3 バケット暗号化の更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

- RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。

2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定領域を開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI による S3 バケット暗号化の更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-128svy9nn2yj8" --change-type-version
"1.0" --title "Update bucket encryption" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-UpdateBucketEncryption\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters
\": {\"BucketName\": [\"BucketName\"], \"ServerSideEncryption\": \"KmsManagedKeys\",
\"KMSKeyId\": [\"01234567-abcd-abcd-abcd-0123456789ab\"]}}\"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateBucketEncryptionParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-128svy9nn2yj8"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateBucketEncryptionParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"DocumentName": "AWSManagedServices-UpdateBucketEncryption",
"Region": "us-east-1",
"Parameters": {
  "BucketName": [
    "BucketName"
  ],
  "ServerSideEncryption": "KmsManagedKeys",
  "KMSKeyId": [
    "01234567-abcd-abcd-abcd-0123456789ab"
  ]
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダのファイルに出力します。この例では UpdateBucketEncryptionRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateBucketEncryptionRfc.json
```

4. UpdateBucketEncryptionRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-128svy9nn2yj8",
  "Title": "Update bucket encryption"
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateBucketEncryptionRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateBucketEncryptionRfc.json --
execution-parameters file://UpdateBucketEncryptionParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon S3 の詳細については、[「Amazon Simple Storage Service ドキュメント」](#)を参照してください。

アプリケーションアカウントの更新 (レビューが必要)

コンソールでアプリケーションアカウントを更新する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット :

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したアプリケーションアカウントの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成：

Note

アプリケーションアカウントからこの変更タイプを実行します。

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0fuztxgwy37rf" --change-type-version
"1.0" --title "Child Application Account RFC" --execution-parameters "'{\RfcId\":
\"7cc277c6-9b55-1f63-361b-5811fce9f830\"},\\"Comment\":"test RFC\"}'"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、CreateAppAcctVpcParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0fuztxgwy37rf" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > UpdateAppAcctParams.json
```

2. UpdateAppAcctParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "RfcId": "7cc277c6-9b55-1f63-361b-5811fce9f830",
  "Comment": "test RFC"
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では UpdateAppAcctRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateAppAcctRfc.json
```

4. UpdateAppAcctRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0fuztxgwy37rf",
  "Title": "Child Application Account RFC"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateAppAcctRfc ファイルと UpdateAppAcctParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateAppAcctRfc.json --execution-
parameters file://UpdateAppAcctParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Important

新しいアベイラビリティゾーン (AZ) に追加のパブリックサブネットを作成するには、プライベートサブネットがすでに存在している必要があります。

- この変更タイプはバージョン 3.0 で、自動化されています (AMS によって手動で実行されなくなりました)。この変更タイプの 2.0 バージョンは、「レビューが必要」(手動) 変更タイプでした。
- AMS マルチアカウントランディングゾーンの詳細については、[「VPC 共有: 複数のアカウントに対する新しいアプローチと VPC 管理」](#)を参照してください。

プライベート IP アドレスを関連付ける (レビューが必要) ct-1pvlhug439gl2

プライベート IP アドレスをコンソールに関連付ける

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した事前取り込みインスタンスの作成

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"`にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rtc --title="Associate Private IP Addresses" --description="Associate Private IP Addresses" --ct-id="ct-1pvlhug439gl2" --ct-version="1.0" --input-params="{\"NetworkInterfaceId\": \"eni-0123456789abcdef0\", \"PrivateIpAddresses\": [\"10.0.0.82\", \"10.0.0.83\"]}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では、`AssociatePrivateIPAddressesParams.json`:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1pvlhug439gl2" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > AssociatePrivateIPAddressesParams.json
```

2. `AssociatePrivateIPAddressesParams` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "NetworkInterfaceId": "eni-0123456789abcdef0",
  "PrivateIpAddresses": ["10.0.0.82", "10.0.0.83"]
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では `AssociatePrivateIPAddressesRfc.json`:

```
aws amscm create-rtc --generate-cli-skeleton > AssociatePrivateIPAddressesRfc.json
```

- AssociatePrivateIPAddressesRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1pvlhug439gl2",
  "Title": "Associate Private IP Addresses"
}
```

- RFC を作成し、AssociatePrivateIPAddressesRfc ファイルと AssociatePrivateIPAddressesParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://AssociatePrivateIPAddressesRfc.json
--execution-parameters file://AssociatePrivateIPAddressesParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon EC2 IP アドレスの詳細については、[Amazon EC2 インスタンスの IP アドレス指定](#)を参照してください。

必要に応じて、[EC2 インスタンススタックの作成が失敗する](#)を参照してください。

Amazon RDS オプショングループを作成する (レビューが必要)

コンソールを使用した Amazon RDS オプショングループの作成

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

- RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
- デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した Amazon RDS オプショングループの作成

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-10yi1sd9nst1c" --change-type-version
"1.0" --title "Create option group (review required)" --execution-parameters
{"\"OptionGroupName\": \"CreatingTheOptionGroup\", \"Description\": \"RDS option
group\", \"EngineName\": \"sqlserver-ee\", \"MajorEngineVersion\": \"10.01\",
\"DBInstanceName\": \"database-1\", \"Priority\": \"Medium\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを CreateRdsOptionGroupParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-10yi1sd9nst1c"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateRdsOptionGroupParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"OptionGroupName": "OptionGroup",
"EngineName": "sqlserver-ee",
"MajorEngineVersion": "10.01"
}
```

- JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateRdsOptionGroupRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateRdsOptionGroupRfc.json
```

- CreateRdsOptionGroupRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
"ChangeTypeVersion": "1.0",
"ChangeTypeId": "ct-10yi1sd9nst1c",
"Title": "RDS-Create-RFC"
}
```

- RFC を作成し、実行パラメータファイルと CreateRdsOptionGroupRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateRdsOptionGroupRfc.json --
execution-parameters file://CreateRdsOptionGroupParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- Amazon RDS DB オプショングループの詳細については、[「オプショングループの使用」](#)を参照してください。
- 最大 50 個のタグを追加できますが、そのためにはアドバンスドビューを有効にする必要があります。

TGW 静的ルートを削除する

ネットワークアカウント: コンソールで TGW 静的ルートを削除する

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット :

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインでRFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定領域を開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

ネットワークアカウント: CLI を使用して TGW 静的ルートを削除する

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パ

ラメータ用) のいずれかを使用し、2つのファイルを入力としてcreate-rfcコマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。

2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification '{"Email\": {"EmailRecipients\": ["email@example.com\n"]}}' にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-0rmgrnr9w8mzh" --change-type-version
"1.0" --title "Remove TGW Static Route" --execution-parameters '{"DocumentName
\n": \"AWSManagedServices-RemoveRouteFromTGWRouteTable\n\", \"Region\n\": \"us-east-1\n\",
\n\"Parameters\n\": {\"TransitGatewayRouteTableId\n\": \"tgw-rtb-06ddc751c0c0c881c\n\",
\n\"DestinationCidrBlock\n\": \"10.16.1.0/24\n\"}}'
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、RemoveTgwStaticRouteParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0rmgrnr9w8mzh"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
RemoveTgwStaticRouteParams.json
```

2. RemoveTgwStaticRouteParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-RemoveRouteFromTGWRouteTable",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "TransitGatewayRouteTableId": "tgw-rtb-06ddc751c0c0c881c",
    "DestinationCidrBlock": "10.16.1.0/24"
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では、RemoveTgwStaticRouteRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > RemoveTgwStaticRouteRfc.json
```

4. RemoveTgwStaticRouteRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0rmgrnr9w8mzh",
  "Title": "Remove TGW Static Route"
}
```

5. RFC を作成し、RemoveTgwStaticRouteRfc ファイルと RemoveTgwStaticRouteParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://RemoveTgwStaticRouteRfc.json --
execution-parameters file://RemoveTgwStaticRouteParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

この変更タイプは、マルチアカウントランディングゾーン (MALZ) ネットワークアカウントでのみ有効です。

AMS マルチアカウントランディングゾーンの詳細については、[AWS Managed Services \(AMS\) がマネージドランディングゾーンを提供するようになりました](#)」を参照してください。

WIGS 用に を作成する (レビューが必要)

コンソールを使用した WIGS のインスタンスの作成

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した WIGS のインスタンスの作成

仕組み：

- インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-36emj2uapfbu8" --change-type-version "2.0"
--title "Create Pre-Ingestion Instance" --execution-parameters "{\"InstanceVpcId
\": \"vpc-1234567890abcdef0\", \"InstanceAmiId\": \"ami-1234567890abcdef0\",
\"InstanceEBSOptimized\": false, \"InstanceRootVolumeSize\": 60, \"InstanceNameTagValue
\": \"temp-wigs\", \"InstanceType\": \"t3.large\", \"InstanceSubnetId\":
\"subnet-0bb1c79de3EXAMPLE\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では CreateEc2PreIngestParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-36emj2uapfbu8"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateEc2PreIngestParams.json
```

2. CreateEc2PreIngestParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "InstanceVpcId": "vpc-1234567890abcdef0",
  "InstanceAmiId": "ami-1234567890abcdef0",
  "InstanceEBSOptimized": false,
  "InstanceRootVolumeSize": 60,
  "InstanceSubnetId": "subnet-1234567890abcdef0",
  "InstanceType": "t3.large",
  "InstanceNameTagValue": "temp-wigs",
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では CreateEc2PreIngestRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateEc2PreIngestRfc.json
```

4. CreateEc2PreIngestRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-36emj2uapfbu8",
  "Title": "Create Pre-Ingestion Instance"
}
```

5. CreateEc2PreIngestRfc ファイルと CreateEc2PreIngestParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateEc2PreIngestRfc.json --
execution-parameters file://CreateEc2PreIngestParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- AWS Marketplace AMI を使用するには、AWS Marketplace アカウントから AMI にサブスクライブし、AMI の条件に同意する必要があります。AMS は、購入者としてこれらのアクションを自分で実行するため、これらのアクションを実行することはできません。これらのアクションに追加の IAM アクセス許可が必要な場合は、[Identity and Access Management \(IAM\) | Create EC2 Instance Profile](#) change type in a separate RFC to request them を使用します。

EBS ボリュームの変更

コンソールを使用した EBS ボリュームの変更

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTsソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した EBS ボリュームの変更

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1wle0ai4en6km" --change-type-version
"2.0" --title "Modify EBS Volume" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-ModifyEBSVolumes\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters
\": {\"VolumeIds\": [\"vol-1234567890abcdef1\", \"vol-1234567890abcdef2\",
\"vol-1234567890abcdef3\", \"vol-1234567890abcdef4\", \"vol-1234567890abcdef5\",
\"CreateSnapshot\": [\"False\", \"VolumeType\": [\"gp3\", \"VolumeSize\": [\"40\", \"Iops
\": [\"3000\", \"Throughput\": [\"200\", \"RemediateStackDrift\": [\"False\"]}]}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では、ModifyEBSVolumeParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1wle0ai4en6km"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
ModifyEBSVolumeParams.json
```

2. ModifyEBSVolumeParams ファイルを変更して保存します。

```
{
  "DocumentName" : "AWSManagedServices-ModifyEBSVolumes",
  "Region" : "us-east-1",
  "Parameters" : {
    "VolumeIds" : [
      "vol-1234567890abcdef1",
      "vol-1234567890abcdef2",
      "vol-1234567890abcdef3",
      "vol-1234567890abcdef4",
      "vol-1234567890abcdef5"
    ],
    "CreateSnapshot" : [
      "False"
    ],
    "VolumeType" : [
      "gp3"
    ],
    "VolumeSize" : [
      "40"
    ],
    "Iops" : [
      "3000"
    ],
    "Throughput" : [
      "200"
    ],
    "RemediateStackDrift" : [
      "False"
    ]
  }
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では ModifyEBSVolumeRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ModifyEBSVolumeRfc.json
```

4. ModifyEBSVolumeRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
```

```
"ChangeTypeVersion": "2.0",  
"ChangeTypeId": "ct-1wle0ai4en6km",  
"Title": "Modify EBS Volume"  
}
```

5. ModifyEBSVolumeRfc ファイルと ModifyEBSVolumeParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ModifyEBSVolumeRfc.json --execution-  
parameters file://ModifyEBSVolumeParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Amazon EBS の詳細については、[「Amazon Elastic Block Store \(EBS\)」](#) を参照してください。

AWS Backup プランの更新 (レビューが必要)

コンソールを使用した AWS Backup プランの更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters 領域を開いて、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した AWS Backup プランの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"`にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-1ay83wy4vxa3k" --change-type-version
"1.0" --title "Update AWSBackup Plan" --execution-parameters ""{"BackupPlanName
\": \"PLAN_NAME\", \"ResourceTagKey\": \"TAG_KEY\", \"ResourceTagValue\":
\"TAG_VALUE\", \"BackupRuleName\": \"RULE_NAME\", \"BackupRuleVault\": \"VAULT\",
\"BackupRuleCompletionWindowMinutes\": 120, \"BackupRuleScheduleExpression\": \"cron(0
1 ? * * *)\", \"BackupRuleDeleteAfterDays\": 90, \"BackupRuleMoveToColdStorageAfterDays
\": 365, \"BackupRuleStartWindowMinutes\": 60, \"BackupRuleRecoveryPointTagKey
\": \"TAG_KEY\", \"BackupRuleRecoveryPointTagValue\": \"TAG_VALUE\",
\"BackupRuleEnableContinuousBackup\": false, \"BackupRuleCopyActionsDestVaultArn
\": \"VAULT\", \"BackupRuleCAMoveToColdStorageAfterDays\": 0,
\"BackupRuleCopyActionsDeleteAfterDays\": 90}""
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では UpdateBackupPlanParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-1ay83wy4vxa3k"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateBackupPlanParams.json
```

2. UpdateBackupPlanParams ファイルを変更して保存します。

```
{
  "BackupPlanName": "MyCustomBackupPlan",
  "ResourceTagKey": "custom_backup_test",
  "ResourceTagValue": "true",
  "WindowsVSS": "disabled",
  "BackupRuleName": "BackupRule",
```

```
"BackupRuleVault": "ams-custom-backups",
"BackupRuleCompletionWindowMinutes": 1440,
"BackupRuleScheduleExpression": "cron(0 2 ? * * *)",
"BackupRuleDeleteAfterDays": 0,
"BackupRuleMoveToColdStorageAfterDays": 0,
"BackupRuleStartWindowMinutes": 180,
"BackupRuleRecoveryPointTagKey": "test",
"BackupRuleRecoveryPointTagValue": "test",
"BackupRuleEnableContinuousBackup": "false",
"BackupRuleCopyActionsDestVaultArn": "",
"BackupRuleCAMoveToColdStorageAfterDays": 0,
"BackupRuleCopyActionsDeleteAfterDays": 0
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateBackupPlanRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateBackupPlanRfc.json
```

4. UpdateBackupPlanRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-1ay83wy4vxa3k",
  "Title": "Update AWS Backup Plan"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateBackupPlanRfc ファイルと UpdateBackupPlanParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateBackupPlanRfc.json --execution-parameters file://UpdateBackupPlanParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

でサポートされているすべてのリソースタイプ AWS Backup がデフォルトで有効になっているわけではありません。[開始方法 1: サービスオプトイン](#)を使用して、アカウントで有効になっているリソースタイプを確認します。

AWS Backup の詳細については、[AWS Backup: 仕組み](#)」を参照してください。

バックアッププランを作成する前に、サポートされているリソースを「[リソース別の機能の可用性](#)」で確認してください。

オフボーディングの確認

Important

アプリケーションアカウントをオフボードするインテントを確認したら、[管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント](#) 変更タイプ (ct-0vdiy51oyrhhm) を実行するのに 48 時間かかります。48 時間後、オフボーディングリクエストは失敗し、確認プロセスとオフボーディングプロセスを再起動する必要があります。

アプリケーションアカウント: コンソールでのオフボーディングの確認

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット :

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

アプリケーションアカウント: CLI によるオフボーディングの確認

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

Note

アプリケーションアカウントからこの変更タイプを実行します。

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2wlfo2jxj2rkj" --change-type-version "1.0" --title "Confirm Offboarding" --execution-parameters "{\"AccountID\": \"000000000000\", \"AccountEmail\": \"email@amazon.com\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では ConfirmAppAcctOffBParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2wlfo2jxj2rkj" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > ConfirmAppAcctOffBParams.json
```

2. ConfirmAppAcctOffBParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "AccountID": "000000000000",
```

```
"AccountEmail": "email@amazon.com",  
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では ConfirmAppAcctOffBRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > ConfirmAppAcctOffBRfc.json
```

4. ConfirmAppAcctOffBRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-2wlfo2jxj2rkj",  
  "Title": "Confirm Offboarding"  
}
```

5. ConfirmAppAcctOffBRfc ファイルと ConfirmAppAcctOffBParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://ConfirmAppAcctOffBRfc.json --  
execution-parameters file://ConfirmAppAcctOffBParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- AMS マルチアカウントランディングゾーンアプリケーションアカウントをオフボーディングする 2 番目のステップは、オフボーディングのインテントを確認してから 48 時間以内にアプリケーションアカウントから変更タイプ [管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント](#) (ct-0vdiy51oyrhbm) を送信することです。
- アプリケーションアカウント (カスタマーマネージド以外) の場合は、オフボードするアプリケーションアカウントからこれを実行します。確認に成功したら、関連する [管理アカウントからオフボードアプリケーションアカウント](#) CT (ct-0vdiy51oyrhbm) を実行します。オフボーディングはアカウント閉鎖を目的としており、元に戻すことはできません。

- カスタマーマネージドアプリケーションアカウントには、この CT を使用しないでください。[Offboard アプリケーションアカウント](#) CT (ct-0vdiy51oyrhbm) に直接移動します。

管理アカウント: オフボードアプリケーションアカウント

Important

オフボーディングの確認 変更タイプ (ct-2wlfo2jxj2rkj) を正常に実行してから、指定したアプリケーションアカウントをオフボードするには 48 時間かかります。48 時間後、オフボーディングリクエストは失敗し、確認プロセスとオフボーディングプロセスを再起動する必要があります。

管理アカウント: コンソールでアプリケーションアカウントをオフボードする

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット :

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs ソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加の設定領域を開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

管理アカウント: CLI を使用したアプリケーションアカウントのオフボーディング

仕組み :

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com`

"\]]}"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成 :

Note

この変更タイプは、オフボーディングされるアプリケーションアカウントに関連付けられた管理アカウントから実行します。

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rtc --change-type-id "ct-0vdiy51oyrhhm" --change-type-version
"2.0" --title "Run Offboarding" --execution-parameters "{ \"AccountID\":
\"000000000000\", \"AccountEmail\": \"email@amazon.com\", \"Confirmation\": \"confirm\",
\"DeleteTransitGatewayAttachment\": true }"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では RunAppAcctOffBParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0vdiy51oyrhhm" --query
"ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > RunAppAcctOffBParams.json
```

2. RunAppAcctOffBParams ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "AccountID": "000000000000",
  "AccountEmail": "email@amazon.com",
  "Confirmation": "confirm",
  "DeleteTransitGatewayAttachment" : true
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルをファイルに出力します。この例では RunAppAcctOffBRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > RunAppAcctOffBRfc.json
```

4. RunAppAcctOffBRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-0vdiy51oyrhhm",
  "Title": "Execute Offboarding"
}
```

5. RunAppAcctOffBRfc ファイルと RunAppAcctOffBParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://RunAppAcctOffBRfc.json --
execution-parameters file://RunAppAcctOffBParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- AMS マルチアカウントランディングゾーンアプリケーションアカウントをオフボーディングする最初のステップは、アプリケーションアカウントから [オフボーディングの確認 CT](#) (ct-2wlfo2jxj2rkj) を送信することです。

この変更タイプは、確認変更タイプが正常に実行されてから 48 時間以内に実行します。

- カスタマーマネージドアプリケーションアカウントに前提条件や確認 CT はありません。
- オフボーディングは元に戻せないことに注意してください。
- AMS からのオフボーディング後にアカウントを自己運用する場合は、接続を維持するために DeleteTransitGatewayAttachment パラメータを false に指定してください。

AMS Resource Scheduler ソリューションをデプロイする

コンソールを使用した AMS Resource Scheduler ソリューションのデプロイ

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開いて、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した AMS Resource Scheduler ソリューションのデプロイ

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create RFC` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id ct-0ywnhc8e5k9z5 --change-type-
version "2.0" --title "Deploy Resource Scheduler" --execution-parameters
'{"DocumentName": "AWSManagedServices-HandleAMSResourceSchedulerStack-
Admin", "Region": "us-east-1", "Parameters": {"SchedulingActive":
```

```
["Yes"], "ScheduledServices": ["ec2, rds, autoscaling"], "TagName":  
["Schedule"], "DefaultTimezone": ["America/New_York"], "Action": ["Deploy"]}]}'
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では DeployResSchedulerParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-0ywnhc8e5k9z5"  
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >  
DeployResSchedulerParams.json
```

2. DeployResSchedulerParams ファイルを変更して保存します。

```
{  
  "DocumentName": "AWSManagedServices-HandleAMSResourceSchedulerStack-Admin",  
  "Region": "us-east-1",  
  "Parameters": {  
    "SchedulingActive": [  
      "Yes"  
    ],  
    "ScheduledServices": [  
      "ec2, rds, autoscaling"  
    ],  
    "TagName": [  
      "Schedule"  
    ],  
    "DefaultTimezone": [  
      "America/New_York"  
    ],  
    "Action": [  
      "Deploy"  
    ]  
  }  
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では DeployResSchedulerRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeployResSchedulerRfc.json
```

4. DeployResSchedulerRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion":    "2.0",
  "ChangeTypeId":        "ct-0ywnhc8e5k9z5",
  "Title":                "Deploy AMS Resource Scheduler"
}
```

5. DeployResSchedulerRfc ファイルと DeployResSchedulerParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeployResSchedulerRfc.json --
execution-parameters file://DeployResSchedulerParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

背景情報については、「[AMS Resource Scheduler の仕組み](#)」を参照してください。クイックスタートチュートリアルについては、「[AMS Resource Scheduler のクイックスタート](#)」を参照してください。

AMS リソーススケジューラは AWS Instance Scheduler に基づいています。詳細については、「[AWS Instance Scheduler](#)」を参照してください。

AMS リソーススケジューラソリューションを更新する

コンソールを使用した AMS Resource Scheduler ソリューションの更新

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した AMS Resource Scheduler ソリューションの更新

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id ct-2c7ve50jost1v --change-type-version "2.0" --title "Update Resource Scheduler Configurations"
--execution-parameters '{"DocumentName":"AWSManagedServices-HandleAMSResourceSchedulerStack-Admin","Region":"us-east-1","Parameters":{"SchedulingActive":["Yes"],"ScheduledServices":["ec2,rds,autoscaling"],"TagName":["Schedule"],"DefaultTimezone":["America/New_York"],"Action":["Update"]}}'
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマを JSON ファイルに出力します。この例では UpdateResSchedulerParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2c7ve50jost1v"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateResSchedulerParams.json
```

2. UpdateResSchedulerParams ファイルを変更して保存します。

```
{
```

```
"DocumentName": "AWSManagedServices-HandleAMSResourceSchedulerStack-Admin",
"Region": "us-east-1",
"Parameters": {
  "SchedulingActive": [
    "Yes"
  ],
  "ScheduledServices": [
    "ec2,rds,autoscaling"
  ],
  "TagName": [
    "Schedule"
  ],
  "DefaultTimezone": [
    "America/New_York"
  ],
  "Action": [
    "Update"
  ]
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateResSchedulerRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateResSchedulerRfc.json
```

4. UpdateResSchedulerRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2c7ve50jost1v",
  "Title": "Update Resource Scheduler Configurations"
}
```

5. RFC を作成し、UpdateResSchedulerRfc ファイルと UpdateResSchedulerParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateResSchedulerRfc.json --
execution-parameters file://UpdateResSchedulerParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

背景情報については、「[AMS Resource Scheduler の仕組み](#)」を参照してください。クイックスタートチュートリアルについては、「[AMS Resource Scheduler のクイックスタート](#)」を参照してください。

AMS リソーススケジューラは AWS Instance Scheduler に基づいています。詳細については、「[AWS Instance Scheduler](#)」を参照してください。

アクセスキーを削除または非アクティブ化する

コンソールを使用したアクセスキーの削除または無効化

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

- 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
- Run parameters 領域を開いて、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したアクセスキーの削除または無効化

仕組み：

- インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
- 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

Note

ポリシードキュメントに貼り付ける場合、RFC は最大 5,000 文字のポリシー貼り付けのみを受け入れることに注意してください。ファイルに 5,000 文字を超える場合は、ポリシーをアップロードするサービスリクエストを作成し、IAM 用を開いた RFC でそのサービスリクエストを参照します。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-37qquo9wbpa8x" --change-type-version "1.0"
--title "Delete or deactivate access key" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\\\"AWSManagedServices-DeactivateIAMAccessKey\\\",\\\"Region\\\": \\\"us-east-1\\\",\\\"Parameters
\\\": {\\\"UserName\\\": \\\"test-user\\\", \\\"AccessKeyId\\\": \\\"AKIAIOSFODNN7EXAMPLE\\\", \\\"Delete
\\\": false}}\""
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータの JSON スキーマをファイルに出力します。例の名前は DeactivatelamAccessKeyParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-37qquo9wbpa8x"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
DeactivateIamAccessKeyParams.json
```

2. DeactivatelamAccessKey ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-DeactivateIAMAccessKey",
  "Region": "us-east-1",
  "Parameters": {
    "UserName": "test-user",
    "AccessKeyId": "AKIAIOSFODNN7EXAMPLE",
    "Delete": false
  }
}
```

```
}  
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを DeactivatelamAccessKeyRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > DeactivateIamAccessKeyRfc.json
```

4. DeactivatelamAccessKeyRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{  
  "ChangeTypeVersion": "1.0",  
  "ChangeTypeId": "ct-37qquo9wbpa8x",  
  "Title": "Delete or Deactivate Access Key"  
}
```

5. DeactivatelamAccessKeyRfc.json ファイルと CreatelamResourceNrrParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://DeactivateIamAccessKeyRfc.json --  
execution-parameters file://DeactivateIamAccessKeyParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および「[管理ポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、「[IAM リソースのデプロイ](#)」を参照してください。

アクセスキーを作成する

コンソールを使用したアクセスキーの作成

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。

2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。

3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したアクセスキーの作成

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

Note

ポリシードキュメントに貼り付ける場合、RFC は最大 5,000 文字のポリシー貼り付けのみを受け入れることに注意してください。ファイルに 5,000 文字を超える場合は、ポリシーをアップロードするサービスリクエストを作成し、IAM 用に関いた RFC でそのサービスリクエストを参照します。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2hhqzgxvkcig8" --change-type-version
"2.0" --title "Create access key" --execution-parameters "{\"DocumentName\":
\"AWSManagedServices-CreateIAMAccessKey\", \"Region\": \"us-east-1\", \"Parameters\":
{\"UserARN\": \"arn:aws:iam::012345678910:user/myusername\"}}\"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。例では、CreatelamAccessKeyParameters.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2hhqzgxvkcig8"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
CreateIamAccessKeyParameters.json
```

2. CreatelamAccessKeyParameters.json ファイルを変更して保存します。この例では、ポリシーードキュメントをインラインで貼り付けた IAM ロールを作成します。

```
{
  "DocumentName": "AWSManagedServices-CreateIAMAccessKey",
  "Region": "ap-southeast-2",
  "Parameters": {
    "UserARN": "arn:aws:iam::012345678910:user/myusername"
  }
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを CreatelamAccessKeyRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateIamAccessKeyRfc.json
```

4. CreatelamAccessKeyRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2hhqzgxvkcig8",
  "Title": "Create IAM access key"
}
```

5. CreatelamAccessKeyRfc.json ファイルと CreatelamAccessKeyParameters.json ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateIamAccessKeyRFC.json --
execution-parameters file://CreateIamAccessKeyParameters.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

- 詳細については AWS Identity and Access Management、[AWS Identity and Access Management \(IAM\)](#) および「[管理ポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。AMS アクセス許可の詳細については、「[IAM リソースのデプロイ](#)」を参照してください。

詳細モニタリングを有効化

コンソールで詳細モニタリングを有効にする

AMS コンソールでこの変更タイプを以下に示します。

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。
 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定領域を開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。

5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI で詳細モニタリングを有効にする

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) または テンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-21112gxvsrrhy" --change-type-version "1.0"
--title "Enable Detailed Monitoring" --execution-parameters "{\"InstanceIds\":
[\"i-1234567890abcdef0\", \"i-1234567890abcdef1\"]}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では EnableDetailedMonitoringParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-21112gxvsrrhy"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
EnableDetailedMonitoringParams.json
```

2. EnableDetailedMonitoringParams ファイルを変更して保存し、変更するパラメータのみを保持します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "InstanceIds": ["i-0cc489fa851c31a21", "i-0cc489fa851c31a22"]
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では EnableDetailedMonitoringRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > EnableDetailedMonitoringRfc.json
```

4. EnableDetailedMonitoringRfc ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-21112gxvsrrhy",
  "Title": "Enable Detailed Monitoring"
}
```

5. RFC を作成し、EnableDetailedMonitoringRfc ファイルと EnableDetailedMonitoringParams ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://EnableDetailedMonitoringRfc.json --
execution-parameters file://EnableDetailedMonitoringParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

サイズのレコメンデーションを含む Amazon EC2 の詳細については、[「Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント」](#)を参照してください。

DeleteOnTermination オプションを更新する (レビューが必要)

コンソールでの DeleteOnTermination オプションの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

 - カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した DeleteOnTermination オプションの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id **ID** コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id **ID** コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-2aaaqid7asjy6" --change-type-version
"1.0" --title "Update DeleteOnTermination" --execution-parameters "{\"InstanceId
\": \"i-1234567890abcdef0\", \"DeviceNames\": [\"/dev/sda1\", \"/dev/xvda\"],
\"DeleteOnTermination\": \"False\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを JSON ファイルに出力します。この例では UpdateDeleteOnTerminationParams.json:

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-2aaaqid7asjy6"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateDeleteOnTerminationParams.json
```

2. UpdateDeleteOnTerminationParams.json ファイルを変更して保存し、変更するパラメータのみを保持します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "InstanceId": "i-0cc489fa851c31a21",
  "DeviceNames": [
    "/dev/sda1",
    "/dev/xvda"
  ],
  "DeleteOnTermination": "False"
}
```

3. RFC テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateDeleteOnTerminationRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateDeleteOnTerminationRfc.json
```

4. UpdateDeleteOnTerminationRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-2aaaqid7asjy6",
```

```
"Title": "Update DeleteOnTermination"  
}
```

5. RFC を作成し、UpdateDeleteOnTerminationRfc.json ファイルと UpdateDeleteOnTerminationParams.json ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateDeleteOnTerminationRfc.json --  
execution-parameters file://UpdateDeleteOnTerminationParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

6. レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

サイズのレコメンデーションを含む Amazon EC2 の詳細については、[「Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント」](#)を参照してください。

RDS メンテナンスウィンドウの更新 (レビューが必要)

コンソールを使用した RDS メンテナンスウィンドウの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプ領域を使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを

開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用した RDS メンテナンスウィンドウの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: `aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

RFC: `aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"` にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-27jyy5wnrfef2" --change-type-version "1.0"
--title "Update RDS Maintenance Window" --execution-parameters "{\"DBIdentifierArn\":
\"arn:aws:rds:us-east-1:123456789101:db:database-1\", \"PreferredMaintenanceWindow\":
\"Sun:04:00-Sun:04:30\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdateRDSMaintenanceWindowParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-27jyy5wnrfef2"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdateRDSMaintenanceWindowParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DBIdentifierArn": "arn:aws:rds:us-east-1:123456789101:db:database-1",
  "PreferredMaintenanceWindow": "Sun:04:00-Sun:04:30"
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json
```

4. UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-27jjy5wnrfef2",
  "Title": "Update RDS Maintenance Window"
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdateRDSMaintenanceWindowRfc.json --
execution-parameters file://UpdateRDSMaintenanceWindowParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

6. レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。「このスタックでは更新を実行できません。詳細については AMS にお問い合わせください。」

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

RDS パフォーマンスインサイトを更新する (レビューが必要)

コンソールを使用した RDS パフォーマンスインサイトの更新

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット :

仕組み :

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。

- 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。

4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
5. Run parameters エリアを開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI によるパフォーマンスインサイトの更新

仕組み：

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む create-rfc コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成し、1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として create-rfc コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id *ID* コマンドを送信します。

RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id *ID* コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の CreateRfc パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたときに通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) --notification "{\"Email\": {\"EmailRecipients\": [\"email@example.com\"]}}\"にこの行を追加します。すべての CreateRfc パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#)を参照してください。

インライン作成：

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して create RFC コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws amscm create-rfc --change-type-id "ct-31eyj2hlvqjwu" --change-type-
version "1.0" --title "Update Performance Insights." --execution-parameters
{"\"DBIdentifierArn\": \"arn:aws:rds:us-east-1:123456789012:cluster:database-1\",
\"PerformanceInsights\": \"true\", \"PerformanceInsightsKMSKeyId\": \"default\",
\"PerformanceInsightsRetentionPeriod\": \"7 days\"}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータを UpdatePerformanceInsightsParams.json.

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-31eyj2hlvqjwu"
--query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text >
UpdatePerformanceInsightsParams.json
```

2. 実行パラメータ JSON ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "DBIdentifierArn": "arn:aws:rds:us-east-1:123456789101:cluster:database-1",
  "PerformanceInsights": "true",
  "PerformanceInsightsKMSKeyId": "default",
  "PerformanceInsightsRetentionPeriod": "7 days"
}
```

3. JSON テンプレートを現在のフォルダ内のファイルに出力します。この例では UpdatePerformanceInsightsRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > UpdatePerformanceInsightsRfc.json
```

4. UpdatePerformanceInsightsRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "1.0",
  "ChangeTypeId": "ct-31eyj2hlvqjwu",
  "Title": "Update Performance Insights"
}
```

5. RFC を作成し、実行パラメータファイルと UpdateRdsRfc ファイルを指定します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://UpdatePerformanceInsightsRfc.json --
execution-parameters file://UpdatePerformanceInsightsParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

6. レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

AMS は、RDS スタックを含む特定のスタックでドリフト検出を使用して、設定が変更されるかどうかを判断します。AMS は、設定ドリフトがあると判断された RDS スタックの更新を禁止します。RFC は失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。「このスタックでは更新を実行できません。詳細については AMS にお問い合わせください。」

サイズのレコメンデーションを含む Amazon RDS の詳細については、[Amazon Relational Database Service ドキュメント](#)」を参照してください。

Aurora の RDS スタックを更新するには、[「RDS データベーススタック | 更新」](#)を参照してください。

セキュリティグループを作成する (レビューが必要)

コンソールを使用したセキュリティグループの作成 (レビューが必要)

AMS コンソールでのこの変更タイプのスクリーンショット：

仕組み：

1. RFC の作成ページに移動します。AMS コンソールの左側のナビゲーションペインで RFCs をクリックして RFCs リストページを開き、RFC の作成をクリックします。
2. デフォルトの変更タイプ参照ビューで一般的な変更タイプ (CT) を選択するか、カテゴリ別選択ビューで CT を選択します。
 - 変更タイプ別に参照: クイック作成エリアで一般的な CT をクリックすると、すぐに RFC の実行ページを開くことができます。クイック作成で古い CT バージョンを選択することはできません。

CTs をソートするには、カードビューまたはテーブルビューですべての変更タイプエリアを使用します。どちらのビューでも、CT を選択し、RFC の作成をクリックして RFC の実行ページを開きます。必要に応じて、RFC の作成ボタンの横に古いバージョンで作成オプションが表示されます。

- カテゴリ別に選択: カテゴリ、サブカテゴリ、項目、オペレーションを選択すると、CT 詳細ボックスが開き、必要に応じて古いバージョンで作成するオプションが表示されます。RFC の作成をクリックして、RFC の実行ページを開きます。
3. RFC の実行ページで、CT 名エリアを開き、CT の詳細ボックスを表示します。件名は必須です (変更タイプの参照ビューで CT を選択した場合は入力されます)。追加設定エリアを開き、RFC に関する情報を追加します。

実行設定領域で、使用可能なドロップダウンリストを使用するか、必要なパラメータの値を入力します。オプションの実行パラメータを設定するには、追加設定エリアを開きます。
 4. 完了したら、実行 をクリックします。エラーがない場合、RFC が正常に作成されたページに、送信された RFC の詳細と最初の実行出力が表示されます。
 5. Run parameters 領域を開き、送信した設定を確認します。ページを更新して RFC 実行ステータスを更新します。必要に応じて、RFC をキャンセルするか、ページ上部のオプションを使用してコピーを作成します。

CLI を使用したセキュリティグループの作成 (レビューが必要)

仕組み:

1. インライン作成 (すべての RFC と実行パラメータを含む `create-rfc` コマンドを発行) またはテンプレート作成 (2 つの JSON ファイルを作成します。1 つは RFC パラメータ用、もう 1 つは実行パラメータ用) のいずれかを使用し、2 つのファイルを入力として `create-rfc` コマンドを発行します。どちらの方法もここで説明します。
2. 返された RFC ID を使用して `RFC: aws amscm submit-rfc --rfc-id ID` コマンドを送信します。

`RFC: aws amscm get-rfc --rfc-id ID` コマンドをモニタリングします。

変更タイプのバージョンを確認するには、次のコマンドを使用します。

```
aws amscm list-change-type-version-summaries --filter
Attribute=ChangeTypeId,Value=CT_ID
```

Note

変更タイプのスキーマの一部であるかどうかにかかわらず、任意の RFC で任意の `CreateRfc` パラメータを使用できます。たとえば、RFC ステータスが変更されたとき

に通知を受け取るには、リクエストの RFC パラメータ部分 (実行パラメータではなく) `--notification "{\"Email\" : {\"EmailRecipients\" : [\"email@example.com\"]}}"` にこの行を追加します。すべての `CreateRfc` パラメータのリストについては、[AMS 変更管理 API リファレンス](#) を参照してください。

インライン作成 :

インラインで指定された実行パラメータ (インラインで実行パラメータを指定する場合は引用符をエスケープ) を指定して `create Rfc` コマンドを発行し、返された RFC ID を送信します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
aws --profile saml amscm create-rtc --change-type-id "ct-10xx2g2d7hc90" --change-type-version "2.0" --title "Test-SG-RR" --execution-parameters "{\"Description\": \"Test-SG-RR\", \"Name\": \"Test-SG-IC\", \"InboundRules\": {\"Protocol\": \"TCP\", \"PortRange\": \"49152-65535\", \"Source\": \"203.0.113.5/32\"}, \"OutboundRules\": {\"Protocol\": \"TCP\", \"PortRange\": \"49152-65535\", \"Destination\": \"203.0.113.5/32\"}}"
```

テンプレートの作成 :

1. この変更タイプの実行パラメータ JSON スキーマをファイルに出力します。この例では、`CreateSgRrParams.json`。

```
aws amscm get-change-type-version --change-type-id "ct-10xx2g2d7hc90" --query "ChangeTypeVersion.ExecutionInputSchema" --output text > CreateSgRrParams.json
```

2. `CreateSgRrParams` ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "Description": "SG-Create-With-Review",
  "Name": "My-SG",
  "VpcId": "vpc-12345abc",
  "InboundRules": {
    "Protocol": "TRAFFIC_PROTOCOL",
    "PortRange": "PORT_RANGE",
    "Source": "TRAFFIC_SOURCE"
  },
  "OutboundRules": {
    "Protocol": "TRAFFIC_PROTOCOL",
    "PortRange": "PORT_RANGE",
  }
}
```

```
"Destination": "TRAFFIC_DESTINATION"
}
}
```

3. RFC テンプレート JSON ファイルを CreateSgRrRfc.json:

```
aws amscm create-rfc --generate-cli-skeleton > CreateSgRrRfc.json
```

4. CreateSgRrRfc.json ファイルを変更して保存します。たとえば、コンテンツを次のような内容に置き換えることができます。

```
{
  "ChangeTypeVersion": "2.0",
  "ChangeTypeId": "ct-10xx2g2d7hc90",
  "Title": "SG-Create-RR-RFC"
}
```

5. CreateSgRrRfc ファイルと CreateSgRrParams ファイルを指定して、RFC を作成します。

```
aws amscm create-rfc --cli-input-json file://CreateSgRrRfc.json --execution-parameters file://CreateSgRrParams.json
```

レスポンスで新しい RFC の ID を受け取り、それを使用して RFC を送信およびモニタリングできます。送信するまで、RFC は編集状態のままであり、開始されません。

ヒント

Note

セキュリティグループを作成するための自動変更タイプとして、デプロイ | 高度なスタックコンポーネント | セキュリティグループ | TCP および ICMP の入出カールのオプションを提供する作成 (レビュー不要) (ct-3pc215bnwb6p7) があります。これらのルールが適切である場合、作成 (自動) 変更タイプはこの変更タイプよりも迅速に実行されます。詳細については、[「セキュリティグループ | 作成」](#)を参照してください。

Note

セキュリティグループが作成されたら、[セキュリティグループ | 関連付け](#)を使用して、セキュリティグループを AMS リソースに関連付けます。セキュリティグループを削除するには、関連付けられたリソースが必要です。

Note

アウトバウンドルールは必須ではありませんが、指定しない場合、「127.0.0.1/32 ブラックホールルール」が使用されます。つまり、リソースは他のリソースと通信できず、それ自体とのみ通信できます。このデフォルトのアウトバウンドルールは、AMS コンソールを使用する場合に表示されますが、AMS API/CLI を使用する場合は表示されません。

これは「レビューが必要」変更タイプです (AMS オペレーターは CT を確認して実行する必要があります)。つまり、RFC の実行に時間がかかる場合があります、RFC の詳細ページの対応オプションを使用して AMS と通信する必要がある場合があります。さらに、「レビュー必須」変更タイプ RFC をスケジュールする場合は、少なくとも 24 時間かかります。スケジュールされた開始時刻より前に承認が行われない場合、RFC は自動的に拒否されます。

AWS セキュリティグループとセキュリティグループの作成の詳細については、[「セキュリティグループルールリファレンス」](#)を参照してください。このページは、必要なルールを決定するのに役立ちます。重要なのは、セキュリティグループに名前を付ける方法であり、他のリソースを作成するときに選択するのが直感的です。また、[「Linux インスタンス用の Amazon EC2 セキュリティグループ」](#)や[「VPC 用のセキュリティグループ」](#)も参照してください。

一般的な AWS セキュリティの詳細については、[「セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンスのベストプラクティス」](#)を参照してください。

セキュリティグループが作成されたら、[セキュリティグループ | 関連付け](#)を使用して、セキュリティグループを AMS リソースに関連付けます。セキュリティグループを削除するには、関連付けられたリソースが必要です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。